
真剣に私と貴方で恋をしよう！！ 外伝？ ～毎日が記念日 365日の小噺～

春夏秋冬 廻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真剣に私と貴方で恋をしよう！！ 外伝？ 毎日が記念日 3
65日の小嘸〜

【Nコード】

N3348W

【作者名】

春夏秋冬 廻

【あらすじ】

特に意味のない作者自己満足の作品です。毎日何かを書くことの思いつきのもと、1年毎日何かしらの記念日がある事に目をつけて適当に作ったものです。見ても面白くなく意味のないものなので自己満足と自己責任でどうぞ。皆さんの雑学の1つの足しにでもなればいいかな？ 毎日のユニークアクセスが100以上……思った以上に見えてただ嬉しいです。

7月25日は？

「今日は『かき氷の日』だぞジン！」

「いきなりどうしたの？ モモちゃん」

「だ〜か〜ら〜！ 今日7月25日は『かき氷の日』なんだぞ！」

「ああ、7月25日の語呂合わせでかき氷の昔の呼び方『夏氷（^ツこ^な 7
25おり）』だね」

「なんだ、そんな意味だったのか」

「知らなかったの？ じゃあなんで僕にそんな事を言ったの？」

「かき氷が食べたい！」

「結局それなんだね……」

10分後。

「そついえばモモちゃん。今日は『かき氷の日』だけど『知覚過敏の日』でもあるから、歯に染みないように気をつけてね」

「もっと早く言ええええええ」

7月26日は？

「そついえばモモちゃん。今日が何の日か知っている？」

「知らないぞ、私は知らないぞ、ジン、私は今日が何の日か絶対に知らないぞ」

「なんで怯えているの？ 今日って確か」

「私は知らないぞ！ 今日が『幽霊の日』だなんて知らないからな！」

「『幽霊の日』？ ああ、この間鉄心さんが言ってたね。何でも」

「四谷怪談の初演の日なんて知らないからな！」

「自分で言つて怯えてどうするんだよモモちゃん。僕が言おうとしたのは『ポツダム宣言記念日』の事だったんだけど……」

「え？」

7月27日は？

「ジン！ スイカを食うぞ！」

「何モモちゃん。また何かの記念日だって言うの？」

「そうだ！ 今日7月27日は『スイカの日』なんだ！ だからスイカを食う！」

「食べ物ばっかだねモモちゃんは」

「そもそも何で『スイカの日』なんだ？」

「えっと確か、スイカが夏の果物を代表する『横綱』だから、語呂合わせじゃないかな？」

「7月27日をどう考えればスイカに繋がるって言うんだ」

「727がそれぞれ『なつな』になるから、『夏』と『綱』の2つを意味して『夏の綱』。それで『夏の横綱』って意味でスイカなんじゃないかな？」

「考えた奴アホだろ」

7月28日は？

「なージン、今日が『浪速の日』だって知ってたか？」

「『浪速の日』？ ああ7月28日の語呂合わせで『728^{なにわ}の日』だね」

「そうだ。だから今日1日は関西弁で話そうと思うとるんやけど、どうやる？」

「何でいきなり関西弁なのか分かんないけど」

「ええやないか。なんや楽しそうやんか！ ちゅーことで、私は今日1日を関西弁で過ごすからな！」

「楽しそうに行っちゃったけど絶対無理だよな………そういえば『葉っぱの日』でもあるんだよね今日は」

7月29日は？

「なあジン。お前はカレーには福神漬か？ それともラッキョウ漬か？」

「またいきなり唐突だねモモちゃん。何？ また何かの記念日なの？」

「ああ、何でも今日は『福神漬の日』らしい」

「なるほど、だから今日はモモちゃんのリクエストでカレーなんだ」

「なあジン、何で今日が『福神漬の日』なんだ？ 語呂合わせも合わないだろ」

「福神漬の名前の由来が『七福神』だからじゃないかな？ ほら今日は7月29日、『^{しち}7^{ふく}29』でしょ？」

「ややこしいな。もっと分かりやす日にしろよな」

7月30日は？

「神！ モモを何とかせんか！」

「どうしたんですか鉄心さん。なんか騒がしいですけど？」

「どうもこうもないわ！ お主のせいでモモがところ構わず門下生にドロップキックをかましとるんじゃない！」

「何で僕のせいなんですか？」

「モモがお主に今日は『プロレス記念日』だと教えてもらったと言っ
ておったぞ！」

「いや確かに教えましたけど、その事とモモちゃんのドロップキックがどう繋がるんですか？ 僕には関係ないじゃないですか！」

「つべこべ言わんでとつとモモを止めてこんかい！ 連帯責任じゃ！」

「理不尽ですよ！？」

7月31日は？

「なあジン。私は人は信じれば空を飛べると思っただ」

「いつも思っけど本当に唐突だねモモちゃん。それで？ 何でそう思っただの？」

「ああ、何でも今日は『パラグライダーの日』らしい」

「だから信じれば空も飛べると思っただの？ モモちゃんのためにはつきり言っけど、人間の身体の構造上、空を飛ぶのは不可能だからね？」

「でもテレビを見る！ あの人たちは気を身体に纏って空を飛んでいるんだぞ！？ 同じように気を纏える私たちも！」

「うん。それ以上はなんかヤバイそうだから言わないでねモモちゃん」

8月1日は？

「なあジン、『国土無双』って何だ？」

「『国土無双』？ 何でいきなりそんなこと気くんだ？」

「いいから答えろ。今の私にはとても重要な事だ」

「別にいいけど……『国土無双』ってのは国中で並ぶ者が無いほど優れた人物のことを言うんだよ」

「ふうん。それ以外に何か意味があるのか？」

「あとは麻雀の役の名前だな。13種すべての？九牌を揃えてそのうちのどれか1つを雀頭ジャントウとした役満だ。そっぴやあ今日は8月1日ハイ『81』の語呂合わせで『麻雀の日』だったな……ってモモ？」

「ジジー！ 国土無双の意味分かったぞー！ 私にも麻雀やらせろ！」

「何やってんですか鉄心さん！？」

「あれ？ 今日俺様の誕生日だけど誰も祝ってくれないの？」

8月2日は？

「モモ。お主パンツは買ったのか？」

「いきなりなんだクソジジイ。よもや孫娘にまで欲情し始めたのか、近付くなこのペドフィリアブルセラジジイ」

「相変わらずいい度胸しとるのう。というかどこでそんな言葉を覚えてくるんじやお主は……まあ今はいい」

「気持ち悪いぞジジイ。いったい何の用だ」

「今日が『パンツの日』だという事を知っとるか？」

「なんだその変態親父が喜びそうな記念日は？」

「ちゃんとした下着メーカーが決めた記念日じゃバカたれ」

「それは分かったけど、何で私に言うんだ？」

「今日は女が惚れた男にこっそりとパンツをプレゼントする日なんじゃよ」

「だ・か・ら！ 何で私にそんな事を言うんだ!？」

8月3日は？

「私は1度だけでいいから熊になってみたいぞ。そして思いっきりはちみつを腹いっぱいになるまで食べたい！」

「なんだいきなり？ 生まれ変わったらってやつか？」

「いや違つぞ。今日は『はちみつの日』らしい」

「だから熊になつてみたいって安直だなモモ……」

「知つてたか？ 熊は蜂に刺されて死なないらしいぞ。しかもスズメバチの天敵らしい」

「刺されても死なないっているよりは、蜂の毒針が届かないだけだろ。熊の体毛はタワシ並みに固いし体毛も結構長いからな」

「ああ！ やっぱり1度熊になつてみたい！」

「モモの場合スズメバチに刺されても平気そうだけだな」

8月4日は？

「『吊り橋効果』と言うものがあるらしいな」

「いつもながら本当に唐突だなモモ。それで？ 今日遊園地に来た事とその発言には何か意味があるのか？」

「男女が危険を共に体験すると連帯感や恋愛感情が生まれるという効果らしいが、お前は思うジン？」

「うん。それはジェットコースターのとっぺんに居るこの状況で話す事なのか？」

「今だから話すんだ。どう思う」

「一種に恋愛勘違い症候群だろ。そもそも俺たちジェットコースターに乗っているだけで危機感を感じるか？」

「そこは盲点だったな……」

「今日が8月4日の『橋の日』だからだと思っけど、俺としては『箸の日』の方が妥当だと思っただけど、お前は思うモモ？」

「凄い速さで落下しているのに余裕だなお前……」

8月5日は？

「どうしたんだモモ。じつとダンボールを見て」

「なあジン。人間1人を入れようとすると、どれだけの大きさのダンボールが必要だと思う？」

「……鉄心さんをダンボール箱詰めにもするつもりなのか？」

「誰がそんなことするか！？ だた今日が『ハコの日』らしいからちよつと疑問に思った事を言っただけだろ！？」

「8月5日だから『8^{ハコ}5の日』か」

「そついう事だ。それでどれだえの大きさが必要かな？」

「やけにこだわるな？ 本当にただ疑問に思っただけか？」

「……………ああ（言えるわけない。箱に入ってジンの誕生日に『私がプレゼント』なんて恥ずかしい事を一瞬でも考えてしまったなんて言えるわけない！！）」

8月6日は？

「朝から黙祷なんてどうしてメンドくさい事しなきゃならないんだ」

「寺院の娘がなに言ってるんだモモ。それに今日8月6日は広島の『平和祈念の日』なんだから」

「分かってるけど、川神院は武術の総本山だぞ？　あまりそういつた事には関係ないと思っっていたんだけどな」

「それでも寺院の院号を貰っているし、鉄心さんは戦争経験者だからから思い入れも一人ひとしおなんだろ」

「そういうものなのかな？」

「そういうものなんだろ」

「私としては『ハムの日』の方がありがたいけどな」

「結局は食べ物なんだなモモは」

8月7日は？

「テレビをニュースを見てるなんて珍しいな？ 何か興味を引く事でもやってたか？」

「なあジン。何で仙台の七夕祭りは7月じゃなくて8月にやるんだ？」

「あれ？ モモ知らなかったのか？」

「知らないから聞いている」

「旧暦だよ。七夕といえば7月7日だけどそれは明治以降の新暦。旧暦の7月7日は新暦では8月6日頃なんだよ。だから今日は『月遅れ七夕』とも呼ばれてる」

「ふうん。だから七夕祭りは8月にやるのか」

「そういう事。それよりもバナナ食べるか？」

「もちろん食べるぞ」

（8月7日は『バナナの日』でもあるんだけどモモは知ってたかな？）

8月8日は？

「どうしたジン？　ぼつつと外を見て何か考えごとか？」

「いや、ちよつとな？」

「悩みならお姉さんが聞いてやる。何でも話せ。さあ話せ！」

「もはや脅しだよモモ……大した事じゃないんだけど、ヤマが8月8日は『親孝行の日』だって言ってたからな……」

「何で『親孝行の日』なんだ？」

「88が『88』^{はは}『88』^{パパ}と読める事と、『ハチハチ』を並びかえると『母・父』と読める事かららしい」

「それがどうして　　ああ……悪い……お前は両親の顔知らないんだっとな」

「別に気にするな。ちよつと考えていただけだよ」

（今日はお前の誕生日なの忘れてるだろ。ジジイ、今日を誕生日にしたの失敗だったな）

8月9日は？

「メンドくさい。メンドくさい！ 本当にメンドくさいぞ！ ジン！」

「だから仕方ないって言ってるだろ？ 8月9日は長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典の日なんだから。広島の平和記念の日と同じだろ」

「だからって何で私たちまで付き合わなきゃなんないんだ！？ 私たちには本当関係ないだろ！」

「戦争を忘れないためだろ。事実俺たちの年代は戦争知らないんだから」

「戦争が起きたら私が戦地につて全員を殲滅してやる！」

「出来そうで怖いぞお前のその発言は……後でファミリー集めて野球でもするか。ちょうど今日8月9日は『野球の日』だからな」

「よし！ とつとと全員を集めるジン！」

8月10日は？

「うーん……これは違う……これもなんか変だな」

「あのさモモ。買い物に付き合うのは別に構わないけど、何で帽子選びに俺に似合う似合わないを試す必要が？」

「お前に誕生日プレゼントを渡してなかったからな。今日は『帽子の日』でもあるからついでにと思ってな」

「8月10日で『810^{ハット}』で帽子か。それよりモモ、誕生日プレゼントはみんなから貰ったぞ」

「私個人のプレゼントだ。いいから動くな」

「はいはい」

「うーん……これもなんか違う……これも全然似合っていない！ ああ！ その鬱陶しい長い髪をなんとかしろ！」

「なんだよその理不尽は！？ 髪を伸ばせって言ったのはモモだろ！？」

8月11日は？

「お姉様〜！」

「おおワン子！ こっちだぞー！」

「ねえお姉様、用事って何？」

「聞いて驚けワン子！ 今日は何とワン子を称える日なのだ！」

「ええ？ アタシ呪われちゃうの！？」

「いやワン子、それは『祟る』だ。私が言ったのは『称える』だからお前を褒めているんだ」

「え？ お姉様がアタシを褒めてくれるの？」

「そうだぞ妹よ。今日8月11日はなんと『ガンバレの日』なんだ！ だから頑張っている妹を私は姉として褒め称えてやろう！」

「ありがとーお姉様！ でもアタシは毎日が『ガンバレの日』！ これからもお姉様に近付くために頑張るわよ！！」

「うん、私の妹は本当にかわゆいな」

8月12日は？

「君が代って正式な国歌じゃなかったって知ってたかジン？」

「ん？ 一時期問題なってたあれか？ 学校の式典で歌うとかどうかと言ってたな」

「そうそれだ」

「それがどうかしたのか、モモ？」

「いや、今それどうなったのかと思ってな。今でもよく国歌斉唱で歌われてるだろ？」

「ヤマが言ってたけど、1999年に『国旗国歌法』により正式に国歌になったらしい。しかも8月12日を『君が代記念日』にしたらしいぞ」

「それって遅すぎじゃないか？」

「遅いだろ。ヤマが言うには歌詞は10世紀の『古今和歌集』の1編で、曲は1880年の明治13年に作られて国歌として扱われたらしい。そう考えると実に119年だ」

「私はそれを知ってる大和がおかしいと思うが……」

「同感だ」

8月13日は？

「ねえガクト。今日は何の日か知ってる？」

「なんだモロ？ 別にただの何でもない日だろ？」

「違うよ。今日は『函館夜景の日』だよ。1991年から実施されているんだって」

「そん豆知識なんの役に立ってんだ」

「知らないよりは知ってる方がいいでしょ」

「そもそも何で今日がその『函館夜景の日』なんだよ？」

「たぶん8月13日の語呂合わせで『8』を『夜^や』、『13』をトランプのKにして『景^{けい}』。それで『813^{やけい}』にしたんじゃないかな」

「メンドくさい考え方だな」

「そう言ったら終わりだけどね」

「まあ夜景は綺麗だと思うぜ。『夜景がやけいに綺麗だな』って言うしな」

「なんて寒さのオヤジギャグ！？」

8月14日は？

「大和知ってた？ 今日『グリーンデー』って言うらしいよ？」

「なんかの記念日なのか？」

「うん。韓国の記念日なんだけど、8月14日は恋人同士で森林浴をする日なんだって」

「うん。それは分かったけど何で俺は公園につれてこられて何で前は服を脱ごうとしているのかな京さん？」

「だって森林浴って本当は裸でするんでしょ？」

「どこからの知識だそれは。その俺たちは恋人同士じゃないだろ」

「うん。だから今ここで恋人いならうよ大和。好きです付き合ってください」

「お友達として緑色のボトルに入った安価なジュースを飲んで互いを慰め合おう。本来は焼酎らしいんだけどな」

「知ってたなんてさすが博識な大和。好きです」

「だからお友達で」

8月15日は？

「1945年の今日8月15日に日本は終戦を迎えた。それを忘れるために今日は『終戦記念日』であり、それに伴う使者を追悼するための『戦死者を追悼し平和を祈念する日』でもある」

「だから何だってんだジジイ」

「よって今日の全国戦没者追悼式に合わせて正午に黙祷をおこなう」

「またかよ。いい加減関係ない私たちにそれを強制させるな」

「強制ではない馬鹿孫が。これは義務じゃ」

「義務でも誰がやるかジジイ。そもそもジジイがその気になれば世界大戦も勝てたんじゃないのか？」

「戦争を個人の思想で決着させていいわけあるか。少しは考えんかこの馬鹿孫が！」

「はっ！ どうせ腰が抜けて出来なかったんだろ！ 私なら一瞬で殲滅させてやるけどな！」

「相変わらずいい度胸じゃなモモ！ その性根叩き直してやる！」

「上等だジジイ！」

「ハイハイ。ワタシたちは準備を進めるヨ、後は任せたヨ、ジン」

「結局俺なんですネ」

8月16日は？

「なあ知ってるかタカ？」

「なに岳人くん」

「今日はなんと『女子大生の日』らしんだとよ」

「……………」

「何でも日本で初めて女子大生が誕生した日らしくてな、それまで女で大学の入試の合格者は1人もいなかったって言うんだぜ」

「……………」

「女子大生だぜ女子大生！ いい響きだと思わないか？ なあタカ？」

「私の可愛い緋鷲刀に何をいかがわしい事を吹き込んでいる？」

「げっ！？」

「あ、凜奈さん」

「いい度胸だな島津の坊主。これはアレか？ 死ぬ覚悟は出来たという事か？」

「いや、その、ごめんなさい！」

「問答無用だ」

（岳人くん。凜奈さんがその現役女子大生だと知ったらどう思うかな？）

8月17日は？

「おいキャップ、なんだこの大量のパイナップルは？」

「いや、親父がなんか沖縄で貰って来たらしいんだ」

「何でまたこんな大量のパイナップルを……」

「何でも今日は『パイナップルの日』らしいぜ。変な日だよな？」

「語呂合わせだろ。8月17日で『^{パイナ}817ツプル』」

「ん？ おお！ 言われてみればそうだな！ なんかそう考えると
おもしれーな！ なあ大和！ 俺たちもなんかそういった記念日作
ろうぜ！」

「作ってどうするんだ」

「その日を毎年俺たち風間ファミリーで祝うんだ」

「混沌とした宴にしかない気がするんだが、俺の気のせいかな？」

8月18日は？

「そっぴゃあ今年の高校野球はどこが優勝するかな？」

「あんま気にならないからな。どこでもいいだろ。俺様はしらん」

「ガクトには聞いてないよ。それより知ってる？ 今日『高校野球記念日』なんだよ」

「それってどうして？」

「いい質問だヒロ。実は1915年の今日に1回目の全国高校野球大会が始まったんだ」

「人の言葉取らないでよ大和！ ちなみに会場が甲子園に変わったのは第10回から。名称が全国高校野球選手権大会に変わったのは昭和23年からなんだよ」

「無駄な知識。あんま必要ないと思うよモロ」

「大和くんも必要な知識とは思えないけど、そん辺はどうなの京ちゃん」

「博識な大和、カッコイイ」

「京は結局そこにいくのかよ。俺様には理解できねーよ」

8月19日は？

「今日は『俳句の日』らしいからみんなで俳句を詠んでみようぜ！」

「キャップ。子供の俺たちに季語を含めた俳句は難しい。川柳でいくべきだ」

「じゃあそれで！ 10分後順番に発表だ！」

10分後。

夏の日の みんなと一緒にの この時間 師岡卓也

夏の夜に 暗闇を照らす 火の大花 直江大和

夏空の 夕立の後に 虹かかる 篁緋鷺刀

夕涼み 縁日廻る 仲間たち 暁神

俺様は 最強無敵の 岳人様 島津岳

冒険が いつでも呼んでる この俺を 風間翔一

どんな日も 夢を目指して 頑張るぞ 川神一子

強い奴 早く私の 前に来い 川神百代

将来は 直江京に なっている 椎名京

「なあヒロ。これはもはや川柳ですらないだろ」

「最後なんか願望だよね。ジン兄」

8月20日は？

「知ってた？ 今日『交通信号設置記念日』なんだよ」

「またモロの無駄な雑学知識が始まった」

「タクには厳しいなミヤ。ヤマとの反応が全く違う」

「私にとって大和が正義。大和と仲間以外はゴミに等しいの。分かるジン兄？」

「分かりたくもないぞミヤ。もう少し人付き合いをよくしろ。じゃなきゃいつかどうしようもなくなるぞ？」

「……ジン兄の言葉も分からないでもないけど……やっぱり人は怖い。いつかまたあの時みたいになるか分かんないもん」

「そうか……」

「僕の話、全く聞いてないよね2人とも……」

8月21日は？

「知っていますかユキ？　今日は『献血の日』なんですよ？」

「『献血の日』？　献血をしなさいって日なの？」

「違う。今日は献血制度が出来た日なんだよ。血つてのは昔は売血制度があつて自分で血を売っていたが、1964年にその制をが廃止し、輸血を献血で確保する体制を確立するよう決まったんだ」

「準の言う通りです。実際は1978年に完全に確立した制度なんですけどね」

「ふん……ねえねえトーマ。血っていくらぐらいで売れるの？」

「難しい質問ですね。輸血用のパック400？がだいたい1万8千円前後ですね」

「じゃあ人間の血液つてだいたいどれぐらいあるの？」

「人の血液量はその人の体重の約8%ですよ」

「俺の今の体重が47キロだから約4リットルだな」

「じゃあ準の血を全部売っても18万にしかないんだ。つまんないな」

「怖い事言わないでくれ！！」

8月22日は？

「8月22日は実は1903年に東京で初めて路面電車が走った日なんだよ」

「おい大和。急にモロが何か語り出したぞ」

「誰だよモロに電車のお話を振ったのは？ ガクトか？」

「お、俺様じゃないからな」

「思いつきり語るに落ちてるなガク」

「雉も鳴かずんば撃たれないのにね。しょーもない」

「ねえねえ誰かと止めてよあれ」

「無理だよ一子ちゃん」

「それでね、それを記念して今日8月22日は『チンチン電車の日』になってるんだ」

「女子の前で隠す事無く卑猥な言葉を吐くとは、成長したなモロロ」

「え？」

「『あ、止まった』」

8月23日は？

「あっちーな！　こんだけ暑いとハワイに行きたいぜ！」

「何で暑い時にさらに暑い所に行きたいんだよキャップは」

「なんでってその方が楽しいだろ！？」

「楽しむ前に暑さでどうにかなりそうだよ」

「ヒロの意見に賛成だ。とにかく今は涼みたいぞ」

「ようし！　俺がウクレレを弾いてやるから楽しめ！」

「話聞けよキャップ！　ていうか何でウクレレなんか持ってんだよ！？」

「さっきそこで『今日はウクレレの日だから君のもあげる』って言うてアメリカ人ばい人が俺にくれたんだよ」

「どういう遭遇率なのそれ？　何をどうすれば『ウクレレの日』にウクレレ持っている人に会うの？」

「キャップだからだろ」

「否定できないから怖いよね」

8月25日は？

「いきなりだがみんはなカップ麺って言ったら何が好きだ？」

「ホントに急だねキャップ」

「さっきテレビ見てたら今日が『即席ラーメン記念日』らしい。だから気になって聞いてみた。ちなみに俺はやっぱり王道の『カップ
ードル』だ！」

「感性にいきてるなうちのキャップは。ちなみに私は『王・しゅゆ味』だ」

「姉さんが言えるのそれ？ 俺は『シーフード ードル』だな」

「よく突っ込んだね大和。僕は『チキ ラーメン』かなやっぱり」

「モロ自体がチキンだもんな。俺様は『焼きそばU・O』だぜ」

「ガクトもチキンでしょ。私は『職人・坦々麺』。やっぱりこれ」

「京は相変わらず辛党ね。アタシは『の達人』よ！」

「僕は『ど 兵衛・きつねうどん』。これだけは絶対譲れないよ」

「ヒロのうどん好きも凄いな。俺は『ス キヤカップ麺』だ」

「……………何それ？……………」

「え？」

8月26日は？

「1789年のこの日、フランスの憲法制定国民議会が『人間と市民の権利の宣言』、つまり『フランス人権宣言』を採択した！」

「歴史的には凄い日だな」

「そして今日8月26日は『人権宣言記念日』でもある！」

「で？ ヤマは何が言いたいんだ？」

「よく聞いてくれた兄弟！ 俺は今日をもって姉さんの横暴に真正面から戦うことを宣言する！ いい加減舎弟にも人権が必要だ！」

「あのさヤマ。盛り上がっているところ非常に申し訳ないんだが……」

「なんだ兄弟？」

「お前の後ろにモモがいるからな」

「……………え？」

8月27日は？

「そっといえばモモ」

「なんだジン？」

「武道四天王って近くにはいないのか？」

「いるぞ。葛飾柴又だ。鉄家と言えばお前も分かるだろ？」

「ああ、あの護らせたら敵はいないっていう鉄家のことか。あの一族って葛飾柴又に住んでいるのか。行かないのか？」

「ジジイに行くなって言われているんだよ。でなきゃ速攻で勝負に行っている」

「当たり前じゃ。きつく言っておかんとすぐに行くからのお前は」

「いきなり出てくるなジジイ。何の用だ」

「なに、葛飾柴田と聞こえてのう。そっといえば今日が『男はつらいよの日』だと思い出したか今からDVDを借りに行くんじゃない」

「発音はDVDディーブイデーですから」

「じゃあの」

「あのジジイは何が言いたかったんだ？」

「ユズ?」

8月28日は？

「そういえば日本民間放送連盟ってところが今日を『テレビCMの日』に制定したみたいだね」

「相変わらず変な情報早いねモロ」

「あれだろ、民放テレビがスタートしたのも今日だろ？ だから同じ日で制定したんだろ」

「さすが大和は博識だね」

「なんだろこの差は……」

「落ち込むなモロ。所詮お前はモロなんだ。どれだけ頑張ってもモロなんだよ」

「意味分かんないからねガクト。っていうかその慰め方やめてくれない？　なんかそれ僕の名前を貶されてる感じがするんだけど」

「ワリイワリイ」

「やっぱりあの2人怪しい……BL臭がする」

「そう言ってるお前が怪しいからな京」

8月29日は？

「てめえワン子！ それは俺様の肉だ！」

「早い者勝ちよガクト！」

「ガクトもワン子も肉ばかり食べてないで野菜も食べなよ」

「はい大和。タレ持って来たよ」

「ありがいたが京、なんだこのヤバイ感じに真っ赤なタレは？」

「モモ先輩ずるいぞ！ 肉食うだけで人を吹っ飛ばすなよ！」

「ハッハッハッハ！ まさに弱肉強食だなキャップ！」

「なんだろねこれ……地獄絵図？ ただの焼肉パーティーがなんでこんな混沌とした宴になったんだろうね。せつかくの『焼き肉の日』なのに」

「最初から分かり切った事だったけどな。モモ、キャップ、カズ、ガクがいる時点でまともなパーティーになるわけがない。俺たちは俺たちで勝手に食べておこう。充分な量は確保してある」

「いいのかな？」

「心配ない。カズもモモも言っているだろ？ 『早い者勝ちで弱肉強食だ』ってな」

「ジン兄も意外とちゃっかりしてるよね」

8月30日は？

「どうしたモモ。じつと携帯を見つめて。迷惑メールでもきたか？」

「メール設定で来ないようにしてある」

「じゃあどうした？」

「これを見てくれ」

「なになに？ 『ハッピーサンシャインデー』？ なんだこの明らかに無理矢理作ったような記念日は」

「830で『830』だそうハッピーサンシャインだ。どう考えたらこんな語呂合わせになるか問い詰めてやりたいのは確かだな。太陽のような明るい笑顔の人のための日らしい」

「それでお前は何を考えていたんだ？」

「いや、私たちの中では誰になるかなと思ってな」

「普通に考えてキャップかカズだろ」

「京じゃないのは間違いないな」

「モモでもないのも間違いなぞ」

「何か言ったか『彼氏』？」

「モモの笑顔が1番だと言っただよ『彼女』」

8月31日は？

「よし、今日は『野菜の日』だな。俺様の博識なところを見せてやるぜ！ おいお前ら」

「今日はモモ先輩の誕生日だぜ！ おめでとう！」

「誕生日おめでとう姉さん」

「おめでとうお姉様」

「モモ先輩、誕生日おめでとう」

「おめでとうモモ先輩」

「おめでとうございますモモ先輩」

「おめでとうモモ」

「みんなありがとな。プレゼントも嬉しかったぞ。でガクト？ お前は私に対するお祝いの言葉はないのか？ うん？ 猶予を10秒やる。それまで言わなければ制裁だ」

「……………あれ？」

「沈んでろ！」

「なんで俺様の時は誰も祝ってくれなかったのに……………なんでだよ…

…」

「そこがガクトとモモ先輩の違いだよ」

9月1日は？

「今日は『防災の日』ですけど川神院では防災訓練みたいなものはないんですか？」

「特にはしておらんのう。一応建物の耐震補強はしておるが」

「ワタシたちにはあまり地震は意味ないからネ」

「確かに地震が来ても津波が来ても大丈夫そうな人たちばかりですよ。その代表例が鉄心さんとモモですからね」

「ワタシからすれば君も十分に大丈夫に見えるよ」

「ホッホッホッホ。まあそれはそれとして自己で防災対策をするに越した事はない。なんせ今日は9月1日じゃからな。『悔い』を残さぬように、なんての」

（寒い、寒すぎます鉄心さん）

（それは明らかにダメなオヤジギャグです。鉄心様）

「ブリザード級のオヤジギャグだなジジイ」

9月2日は？

「なあジン、何で子供は宝くじが買えないんだ？」

「なんだいきなり？ 宝くじを買いたいのか？ 当たりもしないのに」

「当たるかもしれないだろ？ いやキャップに買わせれば1等とは言わなくても確実に当たりそうだろ！？」

「否定はしないけど無理だろ」

「なんでだ？」

「もし当たったとしても未成年場合、当たりくじの換金は保護者同伴だ。結局は自分ではなく保護者が管理する事になる」

「なんだつまらん」

「それ以前に売り場が『未成年の購入は教育上良くないとして自主規制』してるから、売ってもらう事すら難しいだろ。ていうかなんでそんな事を考えたんだ？」

「今日が『くじの日』だからだ！」

「9月2日だからか……いつも唐突だなホント」

9月3日は？

「うつしゃ！ こいキャップ！ 俺様が打ちのめしてやる！」

「へん！ 打てるもんなら打ってみろ！ くらえ！」

「元気だねあの2人は」

「モロ親父臭い。若者はもっと元気にやるべき。とつとあの中に行けば？」

「ここですつと本読んでる京よりはいいと思うんだけど……あ、ガクト三振した」

「次はジン兄だね。ガクトがこっちに来る」

「ねえ京知ってる？ 今日は『ホームランの日』なんだよ。巨人の王 治選手がホームランの世界記録を更新したのが今日なんだって」

「相も変わらず雑学多いねモロ。あ」

「ちつくしよゝなんで打てねえ あが！？」

「ジン兄の打ったボールがここまで飛んできてガクトの後頭部に直撃した」

「誰に説明してんの京！？ ていうかホームからここまで200メートル近くあるんだけど！？ いったいどれだけ飛んだのさ！？」

「だって、ジン兄だもん」

「納得するしかないじゃないか!!」

9月4日は？

「これはズルイよね、モモ先輩」

「ああ、これはないだろ。こいつら本当に男か？」

「なあヒロ、なんで俺たちはこんな事をされてさらに男の尊厳を踏み躪られるような言葉を言われなきゃいけないんだ？」

「何でだろうね。別に何か特別な事してないのに」

「だからズルイんだって事にジン兄もタカの気付くべき」

「そうだぞ。何でお前ら男なのに女の私たちより髪の毛の質がいいんだ」

「それこそ理不尽だろ？ だからって何で髪の毛を弄られなければならないんだ」

「『今日が『くしの日』だから』」

「物凄く意味不明な理由だよねそれ……」

9月5日は？

「そういえば今日って『国民栄誉賞の日』だね」

「いきなりだな大和」

「うん、ふと思い出したんだよ。1977年に通算ホームラン数の世界最高記録を作った王 治が、日本初の国民栄誉賞を受賞した日が今日なんだって」

「あの賞の基準っていったい何なんだ？」

「前人未到の偉業を成し遂げ、多くの国民から敬愛され、夢と希望を与えた人に贈られるらしいよ姉さん」

「ふうん、じゃああれか？ 紛争地帯に行つて両軍を殲滅すれば国民栄誉賞を貰えるんだな？ 前人未到の事だぞ？」

「いや姉さん？ 確かに前人未到だけど国民栄誉賞は贈られるものだからね？ 欲しいからといって貰えるものじゃないから。その辺勘違いしないでね？」

「なんだつまらん」

「それ以前にそんな事しても国民に与えるのは恐怖しかないよ」

9月6日は？

「お兄ちゃん！」

「いきなりどうしたモモ、何か悪いものでも食べたか？」

「お兄ちゃん！」

「ミヤ、悪ふざけはヤマに対してだけやってくれ」

「お兄ちゃん！」

「ん？ どうしたカズ？」

「「納得いかない！！」」

「なんだ？ いったいどうしたモモ、ミヤ」

「だから言っただろ。兄弟から見ても妹として接する事が出来るのはワンス子だけだつて。そもそも姉さんは年上だし京は妹って柄じゃないだろ」

「いったい何なんだヤマ？」

「悪い兄弟。今日が『妹の日』らしいから姉さんが3人の中で誰が一番妹らしく振る舞えるかって言い出して……」

「なるほどな。ていうかモモの彼氏である俺にとってカズは実際妹みたいなもんだし、いつかは本当にそうなるだろうしな」

「いきなり恥ずかしい事言っな！」

9月7日は？

「この なんのきゝきなる ー」

「どうしたワン子？ いきなり歌いだして」

「あ、お姉様！ 知ってた？ 今日って『CMソングの日』なんで
すって。大和が言ってた」

「ふうん、だからさっきの歌が」

「うん！ CMソングって言われて真っ先に思いついたのがあの歌
なの！ お姉様は何を思いつく？」

「私か？ 私は『ピク ン』だな」

「ピ、ピク ン？」

「ああ、ゲームのCMであっただろ？ 『赤ピク ンは火に強い』
とか言うのが」

「確かにあつたけどそれがいったい？」

「いやなに、あのピク ンの種類が仲間たちにかぶる事があってな。
ほらキャップは火に強そうだし、ジンは溺れる事ないだろ。タカな
んか飛べそうだし、ガクトは力持ちだろ。それに京は間違はなく毒
持ってるし」

（お姉様の感性って時々分からないわ……）

9月8日は？

「うゝ勉強なんて嫌いよお」

「文句言わないワン子。最低限の事はやっておかなきゃ恥かくのワン子だよ」

「分かってるわよ京」

「じゃあ1つ問題。1951年の今日、アメリカで何があつた？日本にも重要な事だよ」

「ええつと、ええつと」

「……終戦から6年、日本と連合国間の対日講和会議が開かれて時の総理、吉 茂が調印した条約だよ」

「分かったわ！ 『バカヤロー解散』！」

「お前がバカヤローだ。『サンフランシスコ平和条約』と『日米安全保証条約』でしょうが。それを記念して今日は『サンフランシスコ平和条約調印記念日』。何で変な事は覚えて必要な事忘れてんの」

「こ、怖いよ京」

「バカヤローの言葉に傾ける耳は持っていない」

「い、いやあああ！」

9月9日は？

「緋鷲刀、温泉に行くぞ！」

「うん、行ってくれば？　まとまった休みが入ったんだよね」

「何を惚けているんだ。お前も行くに決まってるだろ。さっさと準備しろ」

「あの凜奈さん？　僕今日も明日も学校があるんですけど？」

「そんなもの知らん。私はお前も連れて行くと決めているんだから学校の事なんかどうでもいい」

「どうしてもよくないから！　何で今日になっていきなり温泉に行くとか言い出したの？　いつもならもっと計画的に準備してるでしょ」

「今日9月9日は『温泉の日』だ。大分県の九重町が町内に『九重九湯』と呼ばれるほど温泉が点在しているから制定したらしい」

「だから？」

「だからだ」

「意味分かんないよ！？」

9月10日は？

「ねえみんな知ってた？ 今日って『カラーテレビ放送記念日』なんだよ。N Kと民放4社がカラーテレビの本放送を開始した日なんだ」

「またモロの要らない豆知識が始まったよ」

「京ちゃん、その言い方は酷いよ」

「豆知識、雑学っていうのはひけらかしたくなるのが人間の性だよ」

「っていうか、なんで京とタカと大和しか聞いてないの？」

「こんな時に話してんだから聞くわけないだろ」

「キャップ！ それアタシが狙ってたのに！」

「風を止める事は誰にも出来ないぜ！」

「モモ先輩！ 可愛い後輩に恵んでくれよ！」

「お前は可愛くないから恵んでやらんガクト」

「まあ分かってたけど……ていうか何で『910の日』だからといって牛タンオンリーの焼肉パーティーなのさ……」

ギュータン

9月11日は？

「そういういえば最近、公衆電話を見なくなったな」

「ん？ 病院とか携帯の使用を制限されている所とか、駅や空港とかの公共交通機関のステーションにはちゃんと置いてあるぞ？」

「そうなんだが、道端ではめっきり見なくなったなあ」と

「で？ いきなりどうしたモモ」

「いや、大和から今日が『公衆電話の日』と聞いてな、道すがら公衆電話があるか見ていたんだ」

「まあ携帯の普及の影響だろ、確かにコンビニやスーパーの近くにあったやつは撤去されたしな」

「……おいジン、オチがないぞ」

「……いったい何を言ってるんだお前は」

9月12日は？

「なあワン子、今日は『マラソンの日』とされているが、なんでマラソンの距離が42・195キロなのか知っているか？」

「へ？ 限界に挑戦する『死に行くころ』って意味じゃないの？」

「は？ 『死に行くころ』？」

「おお。確かに『死⁴²に行くころ¹⁹⁵』だ」

「感心するな京、って誰だそんな語呂合わせの意味を教えたのは？」

「ガクト」

「よし後で殴っておこう。本当の由来は紀元前の『マントラの戦い』で勝利したアテネの兵士が勝利の報告のために走った距離36・750キロだったんだが、1908年のロンドンオリンピックの時にアレキサンドラ女王が『子供たちにスタートを見せてやりたい』と言う我がままで今の距離になったんだ」

「ふん、で？ それを知ってて何かいい事あるの？」

「さあ？」

「だったら変な事に時間取らせないでよ！」

「私の大和の言った事を変な事だと？ この犬！」

「ごめんさい!？」

「お前のじゃないからな、京」

9月13日は？

「なあクリス、今日が『乃木大将の日』なのは知ってたか？」

「ノギタイシヨウノヒ？ 大和、何だそれは？」

「お前の性格からして知らないのは意外だったな……1912年の今日、乃木希典^{のぎ まれすけ}って軍人とその夫人が明治天皇の大喪^{たいそう}の礼^{らい}って言う国葬の日に自刃して殉職した日なんだ」

「おお！ 主君の葬儀の日に哀悼の意を示し思い偲び、自ら果てるとはまさに武人の鑑！ さすが武士道精神の国だ！」

「大和、私も大和が死んだらすぐに後を追うからね？」

「おお！ この国は大和撫子にも武士道精神が通ずるのか！ 夫の死に付き従う妻！ なんて素晴らしい！」

「いや、京は俺の妻じゃないし恋人でもないからな？ そもそも今その考えはナンセンス……って聞いてないね」

9月14日は？

「ねえ大和、これなんかどう？」

「なあ京、お前はいつたい何がしたいんだ？ いきなり呼び出したと思ったら女性下着売り場に問答無用で連れてきて衆人觀衆のもとお前の下着を選ぶ。これは何かの罰か？ それとも俺に死ねと？」

「大和は知ってた？ 今日は『メンズバレンタインデー』って言うて、男性が女性に下着を送って愛を告白する日なんだよ」

「お友達をお願いします！！」

「大声で頭まで下げて速攻でお友達宣言！？ いくらなんでもそれはないよ大和……」

9月15日は？

「なあまゆっち、今日が『老人の日』なのは知ってたか？」

「もちろんです。2003年から祝日法の改正によって、それまで9月15にだった敬老の日が9月第3月曜日となるのに伴い、従前の敬老の日を記念日として残す為に制定されたからです」

「おおー！ まゆっちすっげー！　なんて博識なんだ！」

「ありがとうございます松風。今日はご老人を見かけたら優しくしましょうね」

「それはいいけどさまゆっち、同級生にすら声かけられないのにお年寄りに優しく声を掛けられるのか？」

「はうあ！？」

「しまった！？　オイラがまゆっちの心をえぐっちゃったぜ！　こうザクリと遠慮なくえぐっちゃったぜー！ー！」

「何やってんだろうね、まゆと松風は……」

9月16日は？

「よっしゃ！　また当たったぜ！」

「何で最後に逆転されんだよ！？」

「7 - 3か……2番人気と3番人気だな」

「おいタク、ラジオと新聞を片手に何をやっているんだあいつらは？」

「あ、ジン兄。いや今日が『競馬の日・日本中央競馬会発足記念日』だつてキャップに教えたら……」

「ああ、競馬の予想をやるうとでも言い出したのか。それで結果は？」

「今8レース終わつてガクトは負けが込んで、大和は五分五分。キャップはまさかの8連勝」

「性格が見て取れるな。しかもキャップは相変わらずの天運」

「そうだね。ジン兄もやってみる？　意外と面白いよ」

「俺はラジオや新聞を見てやらない。やるなら現場に行つてやる」

「馬の調子を直接見るの？」

「いや、勝たせたい馬の野生の本能を刺激して逃げ脚を速くさせて、

それ以外の馬に殺気をぶつけて居竦ませて勝たせなようにする」

「なにその超人めいたイカサマ!？」

9月17日は？

「そいいういやぁニユースで今日は『モノレール開業記念日』だって言ってたんだけどよ」

「なにガクト？ 詳しく知りたいの？ いいよ教えてあげる。あのね、なんで今日が『モノレール開業記念日』になったかって言うとな、1964年、昭和39年の今日が、浜松町〜羽田空港、今はの羽田空港とは別なんだけど、その間で東京モノレールが開業したんだ。あ、ちなみにこの沿線は日本初の旅客用モノレールで、遊覧用のものはそれより7年前の1957年、昭和32年に上野動物園に作られたものが最初だったんだって」

「あゝあ、始まっちゃったわね、モロの機械語り」

「しかも記念日雑学も入って止まりそうにないね」

「おいどうすりゃあいなんだよ？ 教えてくれワン子、タカ」

「責任とって最後まで聞けば？」

「血も涙もねえ幼馴染みたちだなオイ！」

9月18日は？

「知ってたかガクト、モロ。今日は『かいわれ大根の日』なんだぜ」
「いきなりなんだよキャップ。ていうかなんでそんなん知ってんだよ」

「いやーバイト先のおばちゃんがさ、かいわれ大根を大量に買っていたから『どうしたんですか』って聞いたら、『今日はかいわれ大根の日なのよ』って教えてくれたんだ」

「それは分かるけどなんでかいわれ大根を大量に買ってたんのさその人？」

「さあ？ 知らん。料理にでも使うんじゃないか？」

「大量のかいわれ大根を使った料理……いったいどんな料理が想像つかねーよ」

「ガクトのかーちゃんも大量に買っていたぞ」

「嘘だろ！？」

「ガクトの家にその正体不明のかいわれ大根料理が出てきそうだね」

9月19日は？（前書き）

注・独自見解設定あり

9月19日は？

「そういえば今日って『苗字の日』なんだって」

「ああ、確か1870年・明治3年の今日、戸籍整理のため太政官布告により平民も苗字を名乗ることが許されたらしいな」

「へー俺たちの苗字ってその頃付けられたのかな？ みんなに聞いてみようぜ！」

「川神は古いぞ。土地の名前になるほどだからな」

「椎名も古いよ。遅くても江戸後期にはあつたし」

「島津はどうだろうな……かーちゃんが言うには江戸末期には名乗ってたらしいぞ」

「黨も歴史があります。江戸初期頃にはありました」

「フリードリヒもドイツの古くからの軍人家系だ。200年以上の歴史がある」

「簗は江戸以前からの家だよ。発祥は室町時代って聞いている」

「暁は紀元前かららしいな。ざっと2000年以上だ」

「結局僕たち3人だけだね……」

「面白くないぞ大和！ 直江なのになんで古くないんだ！」

「人の苗字にケチつけるなよキャップ！」

9月20日は？

「よっ、はっ、ほっ」

「犬は何をやっているんだ？」

「あれはお手玉ですね。幼い頃に母上と一緒に遊んだ記憶があります」

「おお！ あれがOTEDAMAか！ KIを纏って投げると全てを破壊するといわれる大和撫子の護身武器！」

「オイコラクリ吉！ 一体全体どこからの知識だよそれってばYO！？」

「うん？ 大和から聞いたんだが、何でも今日は戦国の頃、城内に侵入した忍をその城の奥方が手に持っていたOTEDAMAで撃退した伝説の日らしいではないか」

「クリスさん、お手玉とは布で作られた球状のものをあやっつて落とす事なく、多くの数をジャグリングする昔からの日本の遊戯ですよ」

「確かに今日は『お手玉の日』だけど、そんな伝説なんてあるわけねーってばよYO！」

「なんだと！？ おのれ直江大和！ またしても騙してくれたな！」

「それを信じるクリ吉がどうかとオイラは思っつてばYO」

「こら松風、クリスさんは純真な方という事ですよ」

「純真にも限度があると思っつてばＹＯ」

9月21日は？

「見よ！ 俺様の姿を！」

「気色悪いマイナス100点」「冒涇だマイナス100点」

「なんでこんな動きにくい格好しなきゃなんねーんだ」

「なかなか、でも無理がある20点」「やっぱり変だな10点」

「姉さんの命令とは言え、男が着るものじゃないだろ」

「さすが大和って言いたけど今回は40点」「結構いけるな40点」

「恥ずかしいよねこれ……最悪でもカツラは被りたいよ」

「やっぱりモロは似はう。60点」「いいぞモロ口。65点」

「背が高いと似合わないぞこれ……」

「凄いねジン兄。70点」「後姿がヤバいぞジン。80点」

「これは何？ 僕に対する挑戦状？」

「さすがタカ！ 100点満点！」「文句なしだ。お前は性別を間違えた100点！」

「なあ犬、まゆっち、何をやっているんだみんなは？」

「今日が『ファッションショーの日』らしいので、モモ先輩考案の『男子限定女性着物ファッションショー』だそうです」

「面白いでしょーくり」

「意味が分らん」

9月22日は？

「ねえねえ今日って実は『One Web Day』で『オンライン生活を祝う世界的な記念日を作り、維持し、進展させ、普及させる』っていう世界的なイベントがある日なんだよ」

「なんだそりゃ？ ネット廃人たちのイベントか？」

「違うよガクト！ ネットが出来てよかったねっていう日だよ」

「なにが違うんだよ」

「直接会わなくても人との繋がりを作る事の出来るネット環境をもっとよくしていこう、それをもっとみんなに知ってもらおうってイベントなんだよね？」

「その通りだよ、さすがタカ！ やっぱガクトとは頭の作りが違う」

「ケンカ売ってのかモロ！？」

「でも卓也君、22日の記念日語りは意味ないよ。あれ見てよ」

「ジン〜。今日は夫婦の日だぞ〜」

「そうだな」

「大和、今日は夫婦の日だね」

「俺たち友達だろ？」

「なるほど……毎月22日は『夫婦の日』だったね……」

9月23日は？

「なあ兄弟、ヒロ、万年筆の名前の由来って知ってるか？」

「いきなりどうしたの大和君」

「今日が『万年筆の日』だからだろ。1809年の今日、イギリスのフレデリック・バーソロミュー・フォルシュが金属製の軸内にインクを貯蔵できる筆記具を考案し、特許を取った日らしいからな」

「よく知ってるねジン兄」

「なら話は早い。万年筆の名前の由来は2つの通説がある。1つは『fountain pen（泉のペン）』と海外で言われていた事と、半永久的に溢れ出るものを『泉のように湧く』と言う事から少し捻つての『万年筆』と呼ばれるようになったらしい」

「ふうん、それでもう1つは？」

「当時、万年筆の輸入を開始した丸善の店員、金沢万吉さんが一生懸命に販売していた事から『万さんの筆』と呼ばれるようになり、いつしか『万年筆』になったという説だな」

「よくそんなこと知ってたなヤマ」

「2つともなんて言うか……無理矢理感があるよね」

「というか、今日は普通に秋分の日でいいだろ……」

9月24日は？

「凜奈さ〜ん。休みだからっていつまでも寝てないでそろそろ起きてよ」

「う〜ん……」

「書斎の本棚の1番上の右端の段にあるアルバム全部破棄するよ」

「私の緋鷺刀成長記録写真集を捨てるとは言語道断だ！」
ベストマイコレクション

「起きたね。それじゃあパジャマも洗濯するから着替えてね」

「面倒くさい……今日はどこにも行かないからこのままの恰好でいいだろ」

「書斎のビデオラックにあるテープ全部廃棄するよ」

「私の緋鷺刀成長記録映像集を捨てるとは悪逆非道だぞ！」
レジェンドマイコレクション

「じゃあ着替えてね」

「というか緋鷺刀、いったいお前は何をやっているんだ？ 使い古しのエプロンなんか着けて」

「今日が『清掃の日』らしいから自分の家を掃除しろってキャップの命令。ちゃんと証拠写真まで撮って来いって徹底ぶり……なんで一眼レフを構えているんですか凜奈さん？」

「ん？　なんでって、お前が証拠写真いるって言っただろ。任せろ
100枚であろつと撮ってやるぞ」

「1枚で十分だよ……」

9月25日は？

「なあ、知ってたか『女王蜂』。今日って『主婦休みの日』なんだってさ」

「それがどうした」

「生活情報紙『リビング新聞』が日頃家事を主に担当している主婦を対象に読者アンケートを取り、その結果1月と5月と9月の25日を主婦がリフレッシュをする日、『主婦休みの日』と制定したらしいぜ」

「だから何であたいにそんな無駄な^{うんちく}蘊蓄を聞かせるんだ」

「え？　だってだからあんた今日休みなんだろう？」

「あたいは主婦じゃねえ！　メイドだ！　それに今日は定休だ！」

「ぷっ！」

「……何がおかしい？」

「あんたの主婦姿を想像したら爆笑しかない。またしても俺を笑い殺す気か？」

「……テメエ……ブチ殺す！」

9月26日は？

「モロはパソコンが得意なんだろう？」

「得意ってほどじゃないけど、うん、みんなよりは詳しいね。けどどうしたのクリス？」

「いや、大和が『パソコンや機械関係の事はモロに聞け』というものだから……」

「何か知りたい事でもあるの？」

「別にないが気になって聞いてみただけだ」

「ふうん……あ、そうだ、ねえクリス、今日が『ワープロの日』だって知ってた？」

「いや知らなかったな。そんな日があったのか？」

「うん、1978年・昭和53年の今日、東芝が世界初の日本語ワープロ『JW-10』を発表したんだ。発売は翌年の2月だったんだけど、当初の値段、いくらだと思う？」

「20万ぐらいか？」

「630万円」

「な？　なんだその値段は！？」

「そもそもワープロっていうのは『ワードプロセッサ』の略称で、コンピュータで文章を入力、編集、印刷できるシステムのことなんだ。ワープロ機能をROM化して組み込んだあるワープロ専用機と汎用的なパーソナルコンピュータで動作するワープロソフトがあるんだけど、基本ワープロと言えば前者の事を指すんだ」

「え、ええっと……」

「さっき日本で初めてって言ったけど世界初のワープロは1964年に作られた」

「いったいこの話はいつまで続くんだ？」

9月27日は？

「何を見ているんですかタカさん？」

「うん、ちよつとこれをね」

「自動車教習所のパンフレット？」

「おうタカっち。なんだお前、バイクの免許でも取るのかい？」

「ううん、岳人君が持ってきたからちよつと見てただけ」

「あ、見て下さい、今日は日本の女性が初めて自動車の運転免許を取得した『女性ドライバーの日』らしいですよ」

「そういえばタカっちの叔母さん、凜奈さんは免許持ってるのか？」

「っ！？」

「タカさん？」

「…………… お願いです…………… お願いですから速度を抑えて下さい……………
ここは公道です100キロはやめて下さい…………… スポーツカーだから
つて無理にドリフトしないで下さい…………… カーブに向かってアクセル
踏み込まないで下さい…………… 高速道路は高速で走る道路じゃありません
…………… お願いですから200キロで走らないで下さい！」

「あのタカっちが震えてるぜ……………」

「いったいどんな運転をする方なんでしょうか……」

9月28日は？

「個人情報の保護に関する法律……いわゆる個人情報保護法が2005年4月1日に全面施行になったのは知ってると思うけど」

「いきなりどうしたヤマ？」

「プライバシー云々言われ出したのっていつからか知ってるか？」

「その頃じゃないのか？」

「それが違うんだよ。実は1964年・昭和35年の今日、三島由紀夫の小説『宴のあと』でプライバシーを侵害されたとして有田八郎元外務大臣が作者と発行元の新潮社を訴えていた裁判で、東京地裁がプライバシー侵害を認め、三島由紀夫に損害賠償を命じる判決を出したんだ。これが日本でプライバシーが争点となった初めての裁判だったため、今日が『プライバシーデー』と制定されたんだ」

「ふうん、で？ それで何が言いたいんだ？」

「……兄弟、俺にはプライバシーがあるんだろうか？」

「ねえモモ先輩、大和ったら夜中1時に起きたかと思うと、おもむろに自己燃焼促進の本を取り出してじっくり見入った後、枕元にティッシュ箱をおいて30分にもわたる」

「京おおお！ 俺のプライバシーを返せえええ！！」

「強く生きろヤマ……」

9月29日は？

「にゃあ〜ん？」

「……………」

「にゃん？ にゃんにゃん」

「いったいどうしたモモ。ネコミミにシッポまで付けて……ハロウィンには1ヶ月ほど早いぞ？」

「彼女が可愛い格好をしているのに最初に突っ込むところがそこか？ 普通なら『可愛いよ』とか言うだろ、彼氏なら」

「いや、可愛いとは思ってるけど、どうしてネコミミなんだ？」

「何でも今日は『招き猫の日』らしい」

「だから猫の格好なのか。安直なのはこの際、置いとくとして、なんで今日が『招き猫の日』になるんだ？」

「9月29日で『9^{くる}2^ふ9』っていう語呂合わせらしいぞ」

「強引な語呂合わせな気がするがまあ理解は出来た」

「そうか。ならそろそろこつちを向いてくれてもいいんじゃないのか？ なあ彼氏？」

（可愛すぎて直視なんか出来るか！ ヤマかミヤだな、入れ知恵し

たのは！ 後で絶対にお仕置きをしてやるから待ってる！
(

9月30日は？

「ガクト……ついにやっちゃったね」

「そうだな、よりによって今日やるとはな」

「いつかやるとは思っていたけど……僕が注意していれば」

「モロは悪くない。悪いのは馬鹿なガクト」

「京の言う通りだモロ、悪いのは無知なガクトなんだ」

「ありがとう大和、京」

「おいいったい何なんだこの雰囲気俺様がいったい何をした！？」

「くるみ、握り潰したでしょ？」

「何だよ京、そんなのいつもの事だろ？」

「今日は『くるみの日』でくるみ愛好家の人たちが制定した日なんだよ。知ってた、ガクト？」

「それがどうしたってんだモロ。別に知らなくても関係ないだろ！」

「お前は何の意味もなくくるみを握りつぶした事で、くるみ愛好家さんのくるみ大好きな心を踏み躪ったんだ！これは冒涇だぞ！
謝れ！」

「え？ 俺様が悪のか？ ってかなんで大和はそんなに興奮してんだ？」

「「「いいから謝れ！」「」」

「くるみ愛好家にか？」

「「「違う！ くるみの木に、あなたの子供を握り潰してすみませんって言え！」「」」

「一気に重くなったな……っーか何？ これってイジメだよな……？」

10月1日は？

「どうよモロ？ 俺様似合うだろ？」

「ガラの悪いヤクザだよね。僕はどうキャップ？」

「まんまオタクじゃねーか！ 俺はどうよジン兄！」

「キャップはサングラスの方が似合いそうだな。俺は似合うか？
モモ？」

「ああ、お前はどんな格好でも似合うぞ。私はどうだクリ？」

「意外と似合いますねモモ先輩。自分は似合うだろうか？ どうだ犬？」

「教育ママね。『ざます』とか言ってほしいわ。アタシはどうまゆ
うち？」

「えっと」「少しは知的に見えるぜワン子ちゃん！ まゆっちはど
うだタカっち？」

「僕はない方がいいと思うけど悪くないよ。僕はどうか大和君？」

「あー……悪い、女にしか見えん。聞きたくないが俺はどうだ京？」

「カッコイイ……操を捧げたいよ大和……期待してないけどどう？
ガクト」

「Sっぽさゝ割増しだな京」

「だけど買っわけでもないのでメガネ屋で何やってんだろうね僕たち」

「今日が『メガネの日』だからだろ？ キャップと姉さんの決定には逆らえないよ」

10月2日は？

「2007年の6月、国際総会で今日が『国際非暴力デー』と制定された！」

「なんでだ？」

「それは今日10月2日があ有名なインド独立運動の指導者で、非暴力を説いたマハトマ・ガンジーの誕生日だからだ！」

「へえ、そっぴゃあの人、ノーベル平和賞の授与を5回も辞退してるらしいな」

「ああ、素晴らしい人だ！」

「で？ ヤマは何が言いたいんだ？」

「よく聞いてくれた兄弟！ 俺は今日！ 姉さんに暴力の空しさを説いてやりたいと思っている！ いい加減理不尽な暴力には耐えられん！」

「以前にもこんなやり取りがあつたような気がするが……盛り上がっているところ非常に申し訳ないヤマ」

「なんだ兄弟？」

「今回もお前の後ろにモモがいるからな」

「……………え？」

10月3日は？

「今日は『登山の日・山の日』らしいけど、みんな1度は登ってみたい山ってある？」

「また唐突だなモロ。10月3日で『103』の語呂合わせか」

「私は大和の股間の山に」

「下ネタ禁止だミヤ」

「俺様もちろんチョモランマだぜ」

「おお！俺も登ってみてー！」

「自分は富士の山だな。日本の象徴だ」

「いいですね、私も富士山には1度登ってみたいと思います」

「富士山なんて登り飽きてるわ」

「何で、一子ちゃん？ああ川神院の修行の一環？」

「その通りだタカ。だけどあんなもん3時間もあれば往復できる。なあジン？」

「最高6往復したか？」

「姉さん、兄弟……頼むから人間の規格で喋ってくれ」

10月4日は？

「知っているか緋鷲刀、今日は『天使の日』らしいぞ」

「『天使の日』？ ああ、語呂合わせで『10^{てん}4^し』だね」

「ところで緋鷲刀。お前は天使と聞くと何を思い浮かべる」

「何って、普通に背中に翼の生えた人でしょ？ よく神の使いとか言われて神話とか伝承とかに登場する」

「ふむ、貧困な想像力だな」

「作家の凜奈さんと一緒にしないでよ。急に言われて思いつくのはありきたりな想像ばかりだよ」

「唐突に聞くが、今お前がご執心のあの子の事だが」

「ご執心って……そんなじゃないからね。でも、まゆがどうしたの？」

「胸のサイズ、およびブラのカップは幾つだ？」

「なっ！？ 急に何を言い出すの凜奈さん！？」

「知っていたか緋鷲刀、今日は婦人下着メーカーのトリンプインターナショナルジャパンが2000年に、同社の製品『天使のブラ』の1000万枚販売達成を記念して制定されたんだぞ。だから『天使の日』だ」

「そんな知識、知りたくなかったよ！」

10月5日は？

「ワン子」

「やっぱ体育かな？ 大和」

「政治経済だな。タク」

「情報処理とかかな。ジン兄」

「何でも出来そうだが、数学とか似合いそうだな。タカ」

「国語だな。なんかそれっぽい。クリ」

「歴史ですね。詳しくそうです。モモ先輩」

「思い浮かばねーよ。保健体育？ まゆっち」

「家庭科とかじゃね？ キャップ」

「想像できない。あえて言うなら考古学？ ガクト」

「体育以外出来ないでしょ。京」

「なんでだろう。養護教諭しか思い浮かばない。っていうか、そもそも全員が教師やってるイメージが全くない気がするの俺の気のせいかな？ 兄弟？」

「まあそう言うなヤマ、ただの遊びだろ」

「今日が『世界教師デー』だからって、なんで教師として似合いそんな科目を言い合わなきゃならないんだ……」

10月6日は？

「『すぐやる課』って知ってる？」

「すぐやるかって……早めに取り掛かる事だろ？ それぐらい俺様も知ってるよモロ」

「違うよ。今日10月5日は1969年・昭和44年に千葉県松戸市の市役所に『すぐやる課』っていう課が出来たんだよ」

「日本の役所にはそんな課があるのか」

「うん、何でも当時の市長の発案で『すぐやらなければならないもので、すぐやり得るものは、すぐにやります』をモットーに、役所の縦割り行政では対応できない仕事に、すぐ出勤してすぐに処理をする事を目的に設置されたんだ」

「住民のための課か。素晴らしいな」

「それとなクリス、その市長は松本清さんでドラックストアの『マツモト ヨシ』の創業者なんだぞ」

「引つかからないぞ大和。為政者が商業者なわけないだろ」

「いや、それ本当なんだけど……」

10月7日は？

「そうそう聞いてくれよ。今日さ、車上狙いしようとしてた奴らに出くわしたから一網打尽にしてやったんだ」

「犯罪を未然に防ぐとは、さすがキャップだ」

「でも危ないですよ、余り無理しないで下さい」

「それがさあ、立て続けに5回も遭遇しちまったんだよなこれが」

「むっ。日本はそんなに車上狙いが多いのか？ 1日に5件とは…」

…」

「こいつの遭遇率の方がおかしいだけだからな！ そう簡単に車上狙いやつてる奴と遭遇するなんてありえねーんだよ！ あれか？

今日が10月7日で『107』^{とうなん}って語呂合わせから『盗難防止の日』に制定されているからか？ お前どんな守護霊が付いているんだってばよ！」

「落ち着いて下さい松風」

「その後も原付のひつたくりも目撃してな。ちょうど俺も原付に乗ってたから、その犯人を追いかけたんだぜ。いやー、カーチェイスみたいで面白かったぜ！」

「何というか……実にキャップらしいが……」

「本当にキャップさんらしいですけど……」

「こいつ……良い悪い関係なく事件に遭遇する星の元に生まれてんだな……」

10月8日は？

「今日10月8日は『足袋の日』なんですよ」

「ふーん。なんでだ？ 語呂合わせとか関係ねえよな？」

「それはですね。日本足袋工業懇談会が1988年・昭和63年に制定しまして、10月以降は七五三・正月・成人式と、着物を着る機会が多くなるという事で、漢数字にすると末広がりで縁起のいい8日を『足袋の日』としたそうです」

「なるほどねえ。やけに詳しいじゃねえかまゆっち」

「まゆっちは小さい頃から着物をたくさん着てんだぜ。それぐらいの知識持っていて当然じゃねえか」

「で？」

「え？」

「それがいったいどうしたってんだ？ 俺様にはあまり関係ないんだけどな」

「こ、ここで1つ小粋なダジャレを！」

「なあなあまゆっち。今度足袋を219足買いに旅に出ようぜ」

「それはまたどうしてですか？」

「足袋を219足買いに『足袋^{たびにいぐ}219』ってな！」

「何故だろう……その寒いダジャレを聞くと、俺様の胸に今、猛烈に懐かしい何かが込み上げてきやがるぜ」

10月8日は？（後書き）

ちよつとした中の人ネタ。歳がばれそうですね。

10月9日は？

「『トラックの日』『塾の日』『道具の日』『東急の日』ね……」

「タカさん？ 携帯電話を眺めてなにをしているんですか？」

「ああ、まゆ。今日がなんの日なのか気になってね。ちょっと調べていたんだ」

「そうなんですか」

「知ってた？ 今日他にも『世界郵便デー・万国郵便連合記念日』でもあって、全世界を1つの郵便地域にする事を目的とした万国郵便連合が発足した日でもあるんだって」

「最近は携帯電話やパソコンの普及で手紙のやり取りは少なくなっ
たって聞きますけどね」

「まゆは結構手紙書いてたよね？ 癖なの？」

「私はただ友達がいませんでしたので携帯電話を持っていなかった
だけなんです……」

「えっと……ごめんね」

10月10日は？

「10月10日はいろんな記念日があるみたいんだけど、その1つに『目の愛護デー』があるんだって」

「記念日語り好きだなモロ。で？ どんな記念日なんだ？」

「うん、1931年・昭和6年に中央盲人福祉協会が『視力保存デー』として制定して戦後に厚生省、現在の厚生労働省だね、そこが『目の愛護デー』って改称したんだ」

「でもなんで今日なの？」

「10月10日の『10』を横に倒すと眉と目の形になるでしょ？そこからみたいなんだ。あ、ちなみに角膜移植のためのアイバンクも1963年・昭和38年の今日に開設されたんだよ」

「ふうん、そうなんだ……ねえ大和。もし私が失明したら手とり足とりぴったりと密着して先導してね？」

「弓は眼が命なんだろ？ その誇りを忘れる事はないと俺はお前を信じているぞ」

「弓をやってる自分が恨めしい……」

「結局そっち方面に行くんだね京は……」

10月11日は？

「わぁ〜京さん凄いです」

「ま、こんなもんだよ」

「京にまゆっち、何をやっているんだ？」

「おうクリ吉。京ネエさんスゲーんだぜ。メツチャウイंकが上手いんだよ」

「そうなのか。自分はどうにもそういったものは苦手だ」

「まあクリス不器用そうだからね。そうそう知ってた？ 今日、10月11日は『10』と『11』を横に倒すとウイंकをしているように見えるから『ウイंकの日』なんだって」

「言われてみればそうですね」

「よくそんな雑学を知っていたな」

「まあね。ちよつと前に女子中学生の間でこの日、朝起きた時に相手の名前の文字数だけウイंकすると、片思いの人に気持ち伝わる、っていうおまじないがはあったからその時しい物狂いで練習したの」

「し、死に物狂いでか……」

「そ。恋する乙女の嗜みだよ」

「京ネエさんの場合、なんか執念っちゅうか怨念が込められてそう
だぜ……」

10月12日は？

「しかし、犬は牛乳をよく飲んでいるが、そんなに好きなのか？」

「当たり前でしょ！ 牛乳は栄養価も高い体にいい飲み物なのよ！
ちなみに今日は豆乳だけだね」

「ワン子にはそれ以外の目的もあるけどね。クリスマスも飲む事をお勧めするよ」

「それ以外の目的？ 牛乳を飲むことで何があるというんだ？」

「豊胸」

「なにっ!？」

「牛乳を飲むと胸が大きくなると言われているんだよ。だからワン子はいつも飲んでる。だから私はクリスのにもお勧めする。胸大きくしたいんでしょ？」

「お、大きなお世話だ！」

「飲み続ければいつかモモ先輩やまゆっちみたいな巨乳になれる日が来るかもね」

「ぬ……ぬぬぬ……」

「ククク、迷ってる迷ってる。あ、ちなみに今日10月12日は『豆乳の日』って言われている。『12』を『10』と『2』に分け

て、それぞれの『10』^と『2』^にの語呂合わせで制定されたんだって。
しょーもないよね」

「犬！ 自分にもそれを分けてくれ！」

「いやよ！ 自分で買ってきたさいよ！」

「クツクツクツク……」

10月13日は？

「あゝ疲れたぜ」

「どうしたキャップ。珍しく弱音はいているな」

「いやな、ここんとこ引越しのバイトが多くてさ。ちょっと疲れ気味なんだよ」

「そうか」

「なあジン兄。何か面白い話ねーか？」

「面白い話じゃないが日本の歴史に残る引越して知ってるか」

「なにになに？　どんなんだ？」

「実は今日10月13日は1868年・明治元年に明治天皇が京都御所から江戸城、現在の皇居に入城したんだ。それを記念して1989年に引越専門協同組合連合会関東ブロック会が『引越しの日』と制定したんだよ」

「へーそうだったんだ。っと、これからまた引越しの手伝いだっただじゃあまた明日な、ジン兄！」

「おう。気を付けて行けよ……………夜の引越しはヤバいからそろそろ足を洗わせるべきだな……………何か起きてからじゃ拙い」

10月14日は？

「外よし、中よし、気配なし。ククク、クリスはいいい子だからもう寝ているし、まゆっちは『友達』って言葉を使えば簡単に操れる。

キャンプと源君はバイトで明日の朝までいないし、クッキーは秘密基地で警備。これで今夜、私を邪魔するものは存在しない。今日は『ワインデー』。恋人とワインを飲みながらロマンチックな時間を過ごす日。まだ恋人じゃないけどお酒の力を借りれば既成事実なんてすぐに出来るさ、ククク。さあ大和！めくるめく幸せの結婚生活のための第1歩を一緒にあれ？大和？どこにいるの？

あ、書置き。えっと『今日は川神院の兄弟の部屋で寝泊まりするかな。夜這いかけてもいないからな』……ちえっ、大和今日が何の日か知ってたみたい。ああ！でもこの放置プレイもなかなか快感がある」

10月15日は？

「そういえば今日のニュースで人形供養の事を言っていたが、日本ではそういうのは多いのか？」

「意外と多いな。特に今日は『人形の日』になってるからそれに因んで全国各地で人形供養や人形感謝祭といった催しが開かれているしな」

「しかし何故人形供養なるものが出来たんだ？」

「なんて説明すればいいか……昔から日本は長く使っていたり飾った物には魂が宿ると言われているんだ。特に人形は人と同じ形をしているから宿り易いらしい。さらに厄や災いを代わりに受けてくれるとも言われている」

「なるほど……つまり感謝の意を込めて供養するという事だな」

「簡単に言えばその通りだ。ところでクリス。島津寮の女子トイレの扉の隣にガラスケースに入った日本人形が置いてあるだろ？」

「ああ、年季の入った見事な人形だ。でもそれがどうかしたのか、ジン兄殿？」

「実はあの人形には魂が宿っていてな。夜な夜なガラスケースから出て寮内を徘徊しているんだ。しかもそれを目撃した寮生は死ぬまで悪夢に苛まれるらしい」

「う、嘘だよな……？」

「どかうかな。そういえば10年ぐらい前の寮生がそのせいで発狂したって聞くな」

「…………た、助けてマルさあああん！」

10月16日は？

「いや、キャップはないだろ」

「そだね。キャップはまんまリーダーって感じだよね」

「どっちかって言うとジン兄の方じゃない？」

「あー俺様もそう思う」

「モモ先輩もそうじゃないだろうか？」

「お姉様はちよつと違う気が……」

「確かに圧倒的ですけど、私もちよつと違うと思います」

「まあ、別の意味では間違ってるんじゃないと思うけど……それを言ったら怖いしね」

「さっきから俺たちの名前が出ているけど……いったい何なんだ、ヤマ？」

「兄弟か。いやな今日が『ボスの日』らしいから俺たちの中で1番『ボス』って言葉が似合うのは誰かな、って話になったんだ。で、俺たちの中では兄弟が1番似合ってるんじゃないかって」

「なるほどね。確かにキャップは『ボス』っているよりは『リーダー』って言葉の方が似合ってるな。でも『ボス』だったらモモも似合うだろ？」

「似合うけど姉さんの場合は味方の『ボス』っていうよりは、敵の『ラスボス』ってのが似合ってるだろ」

「……だそうだぞモモ」

「「「「「「「へ?」「」「」「」」」」」」」

「言い度胸だなお前ら。覚悟は出来ているか?」

10月17日は？

「そういえばキャップで今どのくらい貯金してるの？」

「なんだよモロ、いきなり」

「いやあ実は今日が『貯蓄の日』だからさ。ちょっと気になったんだ」

「教えるほど貯まってねーよ。けど面白れーな。他にも聞いてみようぜ」

「いや、誰もキャップみたいに貯金してないと思うよ」

「えー。ジン兄ならやってそうじゃん」

「もっとあり得ないから！ あの人日本に帰ってきてきてそんなに時間たつてないでしょ！？」

「貯金ならあるぞ」

「うわあ！？ ビックリした！ 背後から急に声かけないでよ！」

「んな事はどーでもいいんだよモロ！ で、いくらぐらい貯金あるんだよ、ジン兄？」

「えーっとアメリカドルで50万だったか？ で、帰国した日付で大使館が日本円に変えて振り込んでくれるはずだから……」

「ちょっと待ってよ！ 4月24日の為替相場って確か1ドル98円ぐらいだったよね？ って事は4900万！？」

「おお！ スッゲー！」

「凄いところじゃないから！ なんてそんなにあるのさ！？」

「たしかお世話になっていた軍での仕事の報酬だったか？ 詳しくは知らないけど」

「ホントに規格外だよねジン兄って……」

10月18日は？

「今日は『ミニスカートの日』だな」

「えっと。どう返したらいいでしょうか、凜奈さん？」

「1967年・昭和42年の今日は、イギリスからその当時『ミニの女王』と呼ばれていたモデルのツイギーが来日した日なんだ。それから日本ではミニスカブームが巻き起こってな」

「うん、それは分かったけどそれを僕に言っていっただうしたいの？」

「つまりこういう事だ」

「その手に持っているものは聞きたくないけどミニスカートだよな？」

「そうだ」

「もしかしてそれを僕に履けと？」

「変態になりたいのか？ これは由紀ちゃんへのプレゼントだ。あの娘、あんまりスカート持ってなさそうだしな。素材がいいのに勿体ない」

「そうだね。喜ぶと思うよ」

「ああ、だから緋鷲刀、これを由紀ちゃんに渡して履いた姿を写真

「取って来い」

「僕に何をさせたいんですか貴女は!？」

10月19日は？

「Hi brother. How do you know what day today is? (なあ兄弟。今日が何の日か知ってるか?)」

「I know. I speak English in what? No, what makes sense from speaking in English. (知ってるけど。何で英語で話すんだ? いや、英語で話すから意味があるのか)」

「Truly brothers. I know that well. (さすが兄弟。よく分かってるな)」

「頭混乱するからやめろ! ここは日本だ! 日本語で喋れよ! っ! かなんで英語で喋ってんだよ!？」

「英語なのは分かるんだねガクト」

「ケンカ売ってんのかモロ! 今日は安値で買っぜ!」

「暴力反対。ちなみになんで2人が英語で話してるのかつてのはね。今日が世界共通の英語コミュニケーション能力検定『TOEIC』を実施する国際ビジネスコミュニケーション協会が制定した『TOEICの日』だからだよ。理由は10月19日で『1019^{トイック}』の語呂合わせだね」

「Did you know that well. Moros Day truly love words. (よく知ってた

な。さすが記念日語りが好きなモロだ」

「No, but I think I know who all
so maniac……（いや、知ってる俺たちもマニアックだと
思っんだが……）」

「Well, this anniversary is an
ordinary person I'll know.（まあ、
普通の人はこんな記念日は知らないよね）」

「だから日本語で喋れ！ 俺様がおかしいみたいじゃねえかよ！」

10月20日は？

「うーん」

「なんだユキ、俺をじっと見て」

「うーん」

「だから何なんだ！ スッゲー気になるじゃねーか！ しかもなんか視線が俺の目より上を見ているような気がするんですけどそれって気のせいですかね！？」

「ねえトーマ。やっぱり今日は準には関係ない日だね」

「その言葉は準に対して失礼ですよ、ユキ」

「えー！ でもやっぱりあれじゃあ」

「それでもです。そもそもあれはユキのせいではないですか」

「ああ！ なんかオチ読めてきたぞオイ！」

「今日は10月20日で『頭髪の日』！ 『^{じゅう}1020』の語呂合わせからなんだってー！」

「ええ、同時に『ヘアブラシの日』でもあるようですね」

「うん！ でもハゲの準には全く関係ないもんね？」

「やっぱそれか！？　ってか俺はハゲじゃなくてスキンヘッドだつて何度も言ってるでしょ！？　わ・ざ・と！　髪の毛を剃ってるの！」

「髪の毛ないならどっちも同じじゃん」

「そうりゃそうだけど！　っていうか！　若も言ってたけどスキンヘッドにしなきゃいけない理由の原因はユキだろ！？　俺はいつまでこのネタでイジられるんだ！？」

「死ぬまでじゃない？」

「それって、死ぬまでスキンヘッド確定なのか？　俺？」

10月21日は？

「ぬおあゝ。身体が固まっちまったぜ」

「ふふ、徹夜でテレビゲームをするのもたまにはいいものですね」

「だろ？ でも桃 やいた トはダメだな。若が1人勝ちしちまう」

「準が弱いだけだよゝだ」

「3人しかいないんだから、集中砲火で俺狙えば最下位に決まってるだろ！ ユキもたまには若を狙え！ って、うん？」

「電球が切れかかっていますね。そうそう、今日が『あかりの日』なのは知っていましたか？」

「『あかりの日』？ 何それ何それ？」

「1879年の今日。かの天才発明家、トーマス・エジソンが日本・京都産の竹を使って白熱電球を完成させた日なんです」

「ふうん。そうなのか。お、丁度日が昇ってきたな」

「ねゝ準。窓際に座ってタオルで頭磨いてよゝ」

「俺の頭は明りじゃねえ！ っていうかなんでハゲネタばっかで俺をイジルんですかね貴女は！？」

10月22日は？

「そういえば、今京都で三大祭りの1つ、『時代祭』がやっているんだけど知ってた？」

「京都三大祭り！ 葵祭や祇園祭と並ぶ日本伝統のお祭りか！」

「クリスは詳しくそうだね……」

「当然だ！ 何でも桓武天皇が長岡京が平安京へ移った日付が今日で、1895年に平安京遷都1100年を記念して創建された平安神宮の例祭になったのが『時代祭』だ！」

「本当に詳しいね。ちなみにその理由から今日は『平安遷都の日』とも言われるらしいよ」

「セント？ あっ！もしかしてあの気味が悪い鹿坊主がマスコットのあれ？」

「それは違うぞ！ 犬！ せんとくんは平安京ではなく平城京遷都1300年を記念して設けられたマスコットだ！ それに鹿坊主ではない！ 鹿の角を持つ仏様をモチーフにしたんだ！ そこを間違えるな！」

「あわわわ、クリ怖いわよ」

「お前はそれでも日本人かー！」

「それ知ってるクリスの方が外国人としてマニアなんだけどね……」

10月23日は？

「小梅さん、小梅さん」

「簞。だから小梅さんはやめろと言っているだろ」

「いいじゃないか。私たち以外誰もいないんだから。なんだったら小梅さんも私の事を『凜』と呼ばばいい。昔みたいに」

「はあ……それで？　いったい何の用だ？」

「そうだった。今日が『電信電話記念日』だという事を知っていたか？　1869年の今日、東京―横浜で公衆電信線の建設工事が始まったんだ。それを記念して当時の電気通信省、後の電電公社、今のNTTが1950年に制定したんだ。ああ、ちなみに当時は旧暦だから9月19日だったんだがな」

「職業病なのか、そういった知識が多いな相変わらず……それを私に聞かせてどうしたい？」

「いや？　特には。ただ仕事以外に男と電話する事のない小梅さんにせめてもの豆知識をだな……」

「いい度胸だ貴様。そこになおれ、指導してやる」

「今の時代、アラサー・アラフォーで独身は珍しくないぞ」

「貴様にだけは言われたくないわ！　待たんか！　凜！」

10月24日は？

「今日は松風ピンチの日かもな」

「どういつ事だい、ジン兄よー」

「知ってたかまゆっち、松風。今日10月24日は『文鳥の日』らしんだ」

「そうなんですか……でもどうしてそれが松風のピンチの日に？」

「ま、オイラよりスゲー奴なんて、ま、いるわけないってばよ」

「はは。10月が手乗り文鳥の日が出回る時期らしいんだ。だから『1024あわせ』って意味の語呂合わせから付けられたらしんだ」

「手に幸せ……つまり手乗り文鳥を飼えば幸せが手に入っているって事ですか！？」

「その意味で間違っていないと思うけど？」

「し、幸せが……」

「って、ちょ、まゆっち！？ どうしようジン兄オイラマジヤベーよ！ まゆっち幸せのためにオイラ手放すかもしれねーよ！」

「本当にこの娘は面白いな……」

10月25日は？

「Hi, Everybody. 元気してたか？ ラジオ番組LOVE川神番外編が始まるよ。パーソナリティーは俺、自家白熱電球こと井上準と」

「人生、順風満帆将来安定。川神百代だ」

「さて、何で今回ラジオかというと、なんと今日10月25日は『リクエストの日』なんですよね」

「ふん、それで？」

「リクエストの始まりは1936年。ベルリンのドイツ放送でラジオのリクエスト番組が放映。生演奏番組の放送中にリスナーから希望する曲目を演奏してほしいと電話があったのがきっかけで始まったんだよね。それが今日10月25日だったため、記念日と制定されたんですよ」

「ふん、だから？」

「いや、凄い日じゃないっすか」

「ああ、凄いな。それでオチは？」

「いやオチって貴女……え？ これってそういうコーナーなの？」

「ないのなら私が落としてやる」

「なんか言葉の意味が違うような気がするんですけど　ってやっ
ぱこのオチなのね！　やめてモモ先輩！　ウ、ウギヤアア！」

10月26日は？

「ふう……」

「又？ どうした姉上。溜息など珍しい」

「おお、英雄か。なに、軍需統括として避け得ぬ問題に直面してな。少し気が滅入っていただけだ。おおそうだ英雄。今日が『原子力の日』だという事を知っておったか？」

「無論。1963年・昭和38年に茨城県東海村に日本はうの原子力発電が行われ、1956年・昭和31年、日本が国際原子力機関IAEAに加盟したのが今日だから1964年・昭和39年に政府が制定したのだろう？」

「フツ、さすがだな。ついでに言うなら『反原子力デー』でもあるがな」

「なるほど、姉上の悩みの種は核兵器か。確かに軍需統括としては避け得ぬ問題だな」

「人が原子力に頼り続ける限り、決して無くならん問題だ」

「フハハハハ！ なにを弱気になる事がある姉上！ ならば九鬼が原子力に変わる新時代のエネルギーを創ればいよいだけではないか！」

「そつれもそうだな。いずれ紋が政界対策部門のトップに立てば、やれぬ事ではない」

「何より！ 我は英雄^{ヒーロー}なのだ！ 英雄^{ヒーロー}に出来ぬ事などありはしない！
フハハハハッ！」

「時折お前のその根拠のない自信が羨ましいな」

10月27日は？

「お？」

「ん？」

「おう、マルギツテじゃないか。こんな所でどうした」

「暁神ですか。お嬢様に頼まれたいた物を島津寮に届ける任務の途中です」

「任務って……いつものごとく熊のぬいぐるみだろ」

「肯定です。知っていますか、暁神。今日は『テディベアズ・デー』と呼ばれています。何故かというと今日はテディベアの名前の由来となったアメリカ第26代大統領セオドア・ルーズベルトの誕生日なのです」

「へえ、そう」

「イギリスのテディベアコレクターの間で始められ、世界中で『心の支えを必要とする人たちにテディベアを送る』運動が行われており、この日本でも日本テディベア協会が1997年から実施しています」

「……………」

「ちなみに何故、名前の由来がセオドア・ルーズベルト大統領かというと、1902年の秋、ルーズベルト大統領は趣味であるクマ狩

りに出かけたのですが得物を仕留める事が出来なかったのです。そこで同行していたハンターが小熊を追い詰めて最後の1発を大統領に頼みましたが、『瀕死の小熊を撃つのはスポーツマン精神にもとる』として撃たなかったのです。この事が同行していた記者により新聞に掲載され、このエピソードにちなんで翌年、ニューヨークのおもちゃメーカーがクマのぬいぐるみにルーズベルト大統領の愛称でもあった『テディ』を名づけて販売したのです。しかもちょうどその頃、ドイツのシュタイフ社のクマのぬいぐるみが大量にアメリカに輸入されたため、『テディベア』の名前が爆発的に広がったのです」

「……………ずいぶん詳しいな」

「……………クリスお嬢様の受け売りです」

「だよな……………あんたがぬいぐるみ好きって事実だったとしても、それはそれで可愛いしいけどな」

「か、可愛いしい……………ゴホン、軍人にそのような形容詞は不要です。では私は急ぎますので」

「気のせいじゃなければ『可愛い』の言葉にえらく反応したような……………言われ慣れてないのか。今度からかってやろうかな」

10月28日は？

「なあなあ大和！ 知ってたか？ 今日は何と『日本のABCの日』なんだよ！ なんか俺様興奮してきたぜ！」

「アホかお前は。いいか、そのABCつての“Audit Bureau of Circulations”の頭文字で日本語で言えば新聞雑誌部数監査機構の事だ。1952年・昭和27年の今日、日本に広告料の基準となる新聞や雑誌の発行部数を調査する団体、^{ABC}新聞雑誌部数監査機構が誕生して、それを記念して1988年・昭和63年に制定されたんだ」

「なんだよそれ。つまんねーじゃねかよ」

「本当にお前は馬鹿だなガクト」

「んだとコラア！？」

「なあ京、何故ガクトは『ABCの日』で興奮するんだ？」

「知らないの？ 日本では“ABC”と言えば恋人との触れ合いを意味するんだよ」

「触れ合い？」

「そそ。ちなみに キス ボディタッチ A・B・Cの事だからね」

「なっ！？ なんとハレンチな！？」

「いやこの程度でハレンチって……ホント、ガクトとクリスって真逆だよね」

「お前もちよつとはクリスを見習って恥じられ、京」

10月29日は？

「あれ、凜奈さん？」

「おお、師岡の坊主か。どうしたこんな所で？」

「うん。ちょっとパソコンのパーツを見にね。ところで何を見てたんですか？」

「ああ、何やら今日は『ホームビデオの日』らしくてな」

「『ホームビデオの日』？」

「何でも1969年・昭和44年の今日、ソニー・松電器・日本クターが世界初の家庭用VTRの規格『U企画』を発表した日らしい」

「へえ、そうなんだ」

「それで今日はビデオカメラがお買い得らしくてな。ちょうどいいから新調しようと考えていたんだ」

「でもこの前タカの入学の時に新しく買ったばかりですよね？」

「半期に1回は新しい機種が出るんだ。チェックは怠らないぞ」

「その心は？」

「常に最新の綺麗な映像で緋鷲刀の姿を残しておきたいという思い

からだ。さらに今は由紀ちゃんもいるしな。2人の姿を永久に残しておくにはやはり1番いいものでないといかん。よし、ついでに一眼レフも新調しよう」

「二十数万もするカメラを思いつきで新調するなんて……この人の金銭感覚ってタカが絡むと途端におかしくなるよね……」

10月30日は？

「みんな自分の初恋って覚えてる？」

「また急だね、いったいどうしたの？　ちなみに私は大和だよ」

「京は聞かなくても分かるよ。あのね、実は今日は『初恋の日』なんだって。何でも島崎藤村が『こひぐさ』の一編として初恋の詩を発表したのが今日で、それを記念して長野県小諸市にある藤村ゆかりの宿、中棚荘が制定したんだって」

「それで『初恋の日』か……恥ずかしいが自分は父様だな」

「やつぱり？　ちなみに僕は幼稚園の時の友達だった女の子かな」

「マセてんなモロ。俺様は小1の時の担任の先生だ。胸大きかったからな」

「筋金入りのスケベだなお前。私はもちろんジンだぞ。ジンももちろん私だよな？」

「当たり前だ。キャップとカズはなさそうだな」

「あはは。よく分らないわ」

「俺も分かんねー。友達として好きと何がどう違うんだよ？」

「キャップはいつになったら異性に目覚めるのやら。俺は母さんの後輩のお姉さんだったな。よく家に遊びに来てたから」

「そいつを殺す」

「物騒だからやめてよね京ちゃん。僕はたぶんみんなの想像通りだ
と思うけど凜奈さん。まゆは？」

「私は初恋以前に異性どころか同性の友達すらいませんでしたので
……」

「……………」

「ちょ、マジヤベーよまゆっち！ まゆっちの発言でみんな引いち
まったぜ！」

「ああ！ も、申し訳ありません！ そうですよねそうですね
なさん幼き頃の大切ないい感じに切なく淡いセピア色になった心の
思い出を語っているというのに私だけが海の底に沈むが如く暗い幼
少時代の黒歴史を語るなんてお前何やってんだ馬鹿じゃねーって感
じですよねただみなさんの話を聞いて何となく私の初恋はタカさん
かななんて思わなくもないわけであってこれって私もみなさんと
同じ淡いセピア色の思い出を持ってるって事ですかやったやりまし
たよ松風！」

「おめでとー！ おめでとーまゆっち！」

「……………」
「……………」
「……………」

10月31日は？

「「「「「Trick or Treat!」」」」」

「ああそうか、今日はハロウィンだったな」

「そうだぞジン。だからお菓子くれそしてイタズラさせろ」

「どっちかにしろ。モモは黒猫か、なんか1ヶ月ほど前も同じ格好してたな」

「大和、お菓子いらないからイタズラして？」

「主旨が真逆だろ。京はミニス力魔女っ娘スタイルか」

「早くお菓子を寄越さないさいよキャップ！ モロ！」

「はは、ワン子まんま犬じゃねーか！」

「いや狼でしょ普通に考えれば！」

「このような格好をするのは初めてだな」

「ほー、クリスはミイラ男 いやこの場合はミイラ女か。俺様としては露出が少なくて残念だぜ。それにしてもまゆっちはスゲーな」

「……………／／／」

「えっと……凄い格好だね？」

「憐れむんだっ たら盛大に憐れんでくれてもいいぜタカツち！ それよりもうちよつと気の利いたコメントはねーのかよ！？ まゆっち一世一代の大決心でこんな格好してんだぜ！？ 悪魔っ娘の格好なんてバニーガールの服着て作りモンの角と羽と尻尾つけただけでほほ露出狂じゃねーかよ！？ ちなみにオイラはジャック・オー・ランタン仕様だぜ！」

「落ち着いて松風。そもそも誰の提案なのその仮装は？」

「はっはっは！ どうだ緋鷲刀、役得だろう？」

「やっぱり凜奈さんだったか……」

10月31日は？（後書き）

ちなみに男どもが

ジン 悪魔 大和 ドラキュラ キャップ 狼男
ガクト フランケンシュタイン モロ 魔法使い
ヒロ ジャック・オー・ランタン

の考えもありました。

「11月1日は？」

「いいクリスマス、今日はワン子を褒める日なんだよ」

「なんだ急に。犬が何したのか？」

「違うよ。今日はワン子の日なの」

「なんだ、あいつの誕生日なのか？　だったら早くプレゼントを買ってこなければ」

「騙されるなクリスマス。別に今日はワン子の誕生日でもなんでもない」

「大和か。では何なんだ？」

「今日は『犬の日』なんだよ。今日11月1日の『111』を犬の鳴き声『^{ワンワンワン}111』の語呂合わせにして、制定されたんだよ」

「なるほど、だから『犬の日』か……おい京、何が犬を褒める日だ。あいつは全然関係ないだろ」

「ちっ……」

「舌打ち？　お前今、舌打ちしただろ？　待て京！　逃げるな！」

「そもそもお前がワン子を『犬』って呼んでるから京にイジられるんだろ」

11月2日は？

「シンクの水垢ってなかなか落ちませんよね」

「あれはね、お酢を使うといいらしいよ。何でも水垢はアルカリ性だからお酢の酸性が中和するんだって」

「タカっちなかなかの物知りだぜ」

「なあジン。あの2人は顔を突き合わせて何の話をしているんだ？」

「何でも水回りの汚れの落とし方について語ってるようだ」

「色気ないな。そもそもなんでそんな話になったんだ？」

「さっき今日が『キッチン・バスの日』って事をお教えたんだよ。ほら、明日が文化の日だから前日である今日に『家庭文化の在り方を考える日』にしようってキッチン・バス工業会が制定したんだ」

「そっからどうすればあんな話しに行きつくんだ……」

「お互い、家事が特技だからだろ」

「へえ、そうなんだ。今度まゆの言う通りにしてみるよ」

「はい！ お役に立てて何よりです！」

「……本人たちが楽しそうにしているからいいか。何とも色気ないけどな」

「やけにそこに拘るなモモ」

11月3日は？

「ねえ大和。今日が何の日か知ってる？」

「何の日って『文化の日』だろ？」

「そうだけど、それ以外にもあるんだよ」

「ああ、戦前は明治天皇の誕生日だったから『明治節』っている祝日だったんだよな。あとは『文化の日』にちなんで『文具の日』や『まんがの日』でもあるな」

「うんそうだね。でも今日は『いいお産の日』でもあるんだよ？」

「『飯尾さんの日』？ 全国の飯尾さんを称える日なのか？」

「わざと言っているでしょそれ。あのね、出産の現状をもっと多くの人たちに知ってもらい、今のお産の状況をよりよいものにしていく日で、『1103^{いいおさん}』の語呂合わせから制定されたんだよ」

「……それを俺に言っただうしたいんだ京？」

「大和も将来、私のためにお産についての知識をちゃんと持っていてね。ああ！ 大和の赤ちゃんを考えるだけで想像妊娠しそう！」

「怖い事を本人の目の前で言わないでくれ！」

ユニーク1万突破 外伝の外伝？（前書き）

ぶっちやけ中の人ネタ。

S登場新キャラとの絡みが基本。

ユニーク1万突破 外伝の外伝？

君と響きあうRPG？

「よう！ 君が燕ちゃんが言ってた風間ファミリーのリーダーの翔一君か！」

「あ？ 誰だあなた？」

「だはは、俺は燕ちゃんの父親で松永久信ってんだ。よろしくな！」

「おう、よろしく！ でも俺、なんかあなたのこと知ってるような気がすんだよな」

「実は俺もなんだよね。もしかして違う世界では一緒に世界を救ってたりして」

「なんかあなたには裏切られそうな気がするんだけどな」

「もう！ 冗談キツイな翔一君は！」

§ § §

絆が伝説を紡ぎだすRPG？

「なんで此方がここにおるんじゃ？」

「それは僕が知りたいよ。ってうかなんで僕、S組の子と一緒にいるんだろ」

「でも何故じゃ、そなたの声を聞くと無性にお金欲しくてたまらない、がめつい性格になりそうなのじゃ！」

「言いがかりでしょそれ！？ 僕だってなんか知らないけど無性にものを投げ飛ばしたくなってるんだから！」

「……………」

「なに？ 急に黙らないでよ」

「モロモロ？ って此方は何を口走っておるのじゃ！？」

「なんでだろう。その呼ばれ方に既視感デジャヴが……………」

§ § §

君と殴り……もとい、君が生まれ変わるRPG？

「なんだお前は！？」

「そりゃこっちのセリフだぜ！ お前こそ何なんだ！？」

「俺は九鬼従者隊序列999位！　そして揚羽様の執事！　武田小十郎だ！　さあ俺は名乗ったぞ！　お前も名乗れ！」

「やけに暑苦しい野郎だな。俺は福本育郎だ」

「福本！　なんでそんなにやる気がないんだ！　お前はもっと周りを楽しませる存在だったはずだ！」

「お前こそ真逆な気がするの俺の勘違いか！？」

「殴り合おう！　そしてお互いの気持ちをぶつけあうぞ！」

「なんでそうなるんだあああ！？」

§ § §

俺が　ンダムだ！

「おい貴様。もつとやる気を出さんか」

「うるせえな。下手に目立つたら組織に狙われるだろうが」

「何の組織だ。まったくこれが那須与一か。せつかくのその力を無駄にするとは……武士道プランと言っても結果がこれじゃあ九鬼も大した事ないな」

「うぜえなテメエ。確か石田三郎だったか？　まさか組織の手の者か？」

「だから何の組織だ。いつものように『狙い撃つ！』とでも言うてる」

「いつ俺がそんな事言った!？」

「フハハハ！　あえて言わせてもらおう！　九鬼英雄であると!」

「「どっから湧いて出た!？」」

§
§
§

俺たちも　ンダムだ！

「大串スグルだ」

「長宗我部宗男!」

「京極彦一だ」

「島右近」

「えっと師岡卓也です。って何この組み合わせは!？」

§
§
§

とある魔術の？

「何故だろう。仲がいいのに義経は時々クリスが凄く疎ましく思えてしまう」

「きゅ、急にどうしたんだ？」

「こうして見ていると、クリスの向こうに長い刀を持った胸の大きな女の人の姿が見えてくるんだ」

「そう言われても……でも確かに自分も時折、義経の向こうに髪の毛の短い電気を纏った中学生ぐらいの女の子が見えるんだ」

「何故だろうか……」

「なんでだろうか……」

§
§
§

とある町のパン屋の出来事？

「おい桐山」

「なんでございましょうか、英雄様？」

「お前に聞きたい事がある」

「私で答えられる事でしたら何でもお答えいたしましょう」

「うむ。では行くぞ。お前に」

「レインボウ」

「……………」

「さすが桐山だ！」

「お誉め頂きありがとうございます」

§ § §

誰かのために生きてその2？

「お前が源忠勝か！」

「なんだオメーは？」

「我は九鬼紋白なり！ おい源！ 我のものになれ！」

「お断りだボケ。そもそも俺とお前のどこに関わり合いがあるんだ」

「言われてみればそうなのだが、我の心の中の何かがお前をものにしろと言って仕方がないのだ」

「そいつは俺じゃなくて、かつての俺だったやつなんじゃねえのか？」

「おお言われてみればそうだ！ だがかつてのお前にはどうやって会えばいいんだ？」

「んなもん知るか。自分で考える」

§ § §

敵物語？

「この組み合わせはいつたい何でしょうね？ クリス様？」

「自分に聞かれても分からん。ていうか何故自分1人が女なんだ、京極殿？」

「さあな、確かに興味深くはあるがたいした意味はないだろう。そう思うだろ鉢屋壱助？」

「とりあえず、倒された者たちなのは間違いないな。という事だ桐山鯉」

「誰にでしょうか？」

「ツンデレの奇策師と一緒に行動する無刀の七代目剣術家だ」

「そう言えばそれがしは殺されていないな」

「何故だろう、無性に将棋が打ちたい」

§ § §

だてにあの世は見てないよ？

「綺麗な薔薇には棘があるのさ。いいねいいね！ ボクカツコイイよね！ そう思わない小十郎」

「ああ！ 決めゼリフっぽくていいなクッキー！ 俺もやるぜ！ 眼の力をなめるなよ！」

「なにやってるんだいあんたたちは。アホな事やってないで仕事しな仕事」

「これはマーブル様！ 申し訳ありませんでした！」

「今度アホな事してたら本当にあの世を見せてあげるからね」

§ § §

青龍偃月刀の遣い手？

「ねえ弁慶？ 三国志で1番好きな武将は誰？」

「やっぱり関羽雲長かしらね。あの強さは生前の私に通ずる強さがあるわ。それになんだか他人って気がしないわね。そういうステイシーは？」

「私も関羽だな。だって呂布と並んで最強って言われてるんだろ？ それに何だが私も他人って気がしないんだよ」

「そう。ねえ、これからそれを肴に飲み明かさない？」

「いいねえ。とことんまで付き合ってやるよ」

「そうね、そしてどっちが本物の関羽雲長なのかはつきりさせましょ」

§
§
§

犬の夜叉と殺生？

「お前は氣にくわねー」

「同感だね。君は美しくない以前に心の底から嫌悪感が湧きあがってくるよ」

「そういう透かしたところが氣に入らねえんだよ！」

「中途半端な君と完全な私とは元から違うんだよ」

「なんだと！」

「本当に野蛮だね」

§
§
§

誰が主で誰がメイドで？

「執事服を着る女の従者。悪くないけどやっぱり可愛い子は侍らしたいな」

「世界的な指揮者か。そういう生活も憧れるな」

「クリスのメイド……すごく大変そうだな」

「どういう意味だ京！」

「まゆまゆは貧乳の半ズボン好きシヨタか。まるで真逆だな」

「な、何の事ですかああ！？」

「僕はお姉ちゃん！ ははは、なんか面白そう！」

§ § §

最後はやっぱり強気っ娘？

「あゝあ、アタシは別の世界だったら四天王の1人なのにな」

「私も通ずるものがあるね。母親と仲いいのは理解できないけど」

「いえゝい！ もしかしたらお嬢様」

「ウチの扱いはあんま変わんねー気がすんだけどな」

「あははゝ天は向こうでも貧乳だもんね」

「チクショー！ どっちでも巨乳の辰姉に言われるとマジムカつく」

ユニーク1万突破 外伝の外伝？（後書き）

いないと思うけど解説。

『君と響きあうRPG?』

松永久信 ゼロス 風間翔一 ロイド

『絆が伝説を紡ぎだすRPG?』

不死川心 ノーマ 師岡卓也 セネル

『君と殴り……もとい、君が生まれ変わるRPG?』

武田小十郎 ヴエイグ 福本育郎 テイトレイ

『俺が　ンダムだ!』

石田三郎 ハレルヤ 那須与一 ロックオン 九
鬼英雄 グラハム

『俺たちも　ンダムだ!』

大串スグル カミィユ 長宗我部宗男 ジュドー
京極彦一 ヒイロ
島右近 ガロード 師岡卓也 シン

『とある魔術の?』

源義経 御坂美琴 クリス 神裂火織

『とある町のパン屋の出来事?』

九鬼英雄 岡崎朋也 桐山鯉 古河秋生

『誰かのために生きてその2?』

九鬼紋白 イリヤ 源忠勝 アーチャー

『敵物語?』

桐山鯉 真庭鳳凰 クリス 汽口慚愧 京極彦一

錆白兵

鉢屋壱助 校倉必

『だてにあの世は見えないよ?』

クッキー1 蔵馬 武田小十郎 飛影 マーブル

幻海

『青龍偃月刀の遣い手?』

武蔵坊弁慶 関羽（恋姫十無双シリーズ） ステイシー

関羽（一騎当千）

『犬の夜叉と殺生?』

福本育郎 犬夜叉 毛利元親 殺生丸

『誰が主で誰がメイド?』

川神百代 南斗星 クリス 久遠寺森羅 椎名京

朱子

黛由紀江 久遠寺未有 榊原小雪 上杉美鳩

『最後はやっぱり強気っ娘?』

川神一子 鉄乙女 椎名京 椰子なごみ 榊原小

雪 霧夜エリカ

板垣天使 蟹沢きぬ 板垣辰子 大江山祈

とりあえずこんな感じですね。

11月4日は？

「タク？ 何か面白い事でもあったのか？ パソコンの画面見ながら笑ってるけど」

「ああジン兄。今日って『ユネスコ憲章記念日』なんだって。1946年・昭和21年の今日、国際教育科学機関が発足した日らしいんだ。なんか『文化の日』の次の日ってというのが良く出来てるなって思ってたんだ」

「なるほどね」

「うえええん。助けてジン兄」

「どうしたカズ？ まるで縄張りを追い出されて当てなく迷っている子犬のような気配だな」

「どんな気配なのさ！？」

「大和と京に勉強教えてもらおうと思ったのに相手にされなかったよ」

「ついにあの2人も匙を投げたってわけか」

「そんなに酷いのか……分かった。俺が見てやるから向こう行くぞ」

「ありがとうー！」

「無邪気について行ったけどなんだろう、ジン兄って大和や京より

もスパルタな気がしてならないんだよね」

「うわああん！ ジン兄、厳しすぎるううう！」

「やっぱりね」

11月5日は？

「こら凜！ 急に帰りに行くところがあると連れだしたと思ったらこんな所に連れてきて。いったいここはどこだ？」

「まあ落ち着け小梅さん。ところで今日が何の日か知っているか？」

「ん？ 何かの記念日なのか？」

「ああ。今日は何と11月5日の『115えん』の語呂合わせで『縁結びの日』なんだ。そしてここは千葉にある縁結び大社だ」

「ほう、それで？」

「日頃男日照りの小梅さんのためを思つての後輩のささやかな心遣いだ」

「そうか、心遣いか。ありがとう。なんて言うつても思つたかこの俗物が！ それは余計なお世話というものだ！ だいたいお前も似たようなものだろ！？」

「ははは。私は結婚するつもりもないし結婚を催促もされてないかな。すでに左うちわで暮らせるだけの蓄えもある」

「くっ……私は時々、なんでお前の友人をやっているのか分からない時があるぞ」

「ははは。正反対だからこそ長続きするんだよ小梅さん」

11月5日は？（後書き）

自分で書いててあれだけど、この2人の組み合わせ凄く好きです。

11月6日は？

「はぁ……」

「どうしたんです小島先生？ 溜息なんか吐いて。悩み事なら相談に乗りますよ？」

「宇佐美先生。いえ、至極個人的な事ですので大丈夫です」

「そうですか。ところで今晚、食事でも」

「結構です」

「相変わらずとりつくしまもないねえ……」

「母親から見合いの催促をされているらしいからな。憂鬱なんだろう。ちなみに今日は『お見合い記念日』らしいぞ巨人さん」

「気配を消して背後に立つなよ凜坊。そして無駄に必要なない知識もありがとさん。しかしお見合いか……小島先生も頼めば恋人役ぐらい引き受けてやるのにな」

「貴方には無理だろう巨人さん」

「無理ってなんでそう言い切れるんだ」

「至極簡単で単純明快だ。貴方は何から何まであの人の好みから外れまくってるんだ。掠るところか大暴投級に外れているのさ」

「遠慮なく言ってくれるねオイ。だいたい小島先生の好みって……」

「性格からして年上はたぶん不可だ。頼るより頼られる事に慣れ切ってるからな。母性本能をくすぐる相手が1番だと私は思っている」

「年上不可って……オジサンの夢をあっさりと壊すなよ」

「自分で自分を『オジサン』と呼んでる時点でアウトだよ」

「バイトで雇ってた時から思ってたけど、凜坊、お前さん本当に容赦ないね」

「褒め言葉として受け取るよ」

11月6日は？（後書き）

さり気なく凜奈と巨人が知り合いです……

11月7日は？

「ああ！　ずるいぞキャップ！　その肉は自分が取ろうと思っ
たのに！」

「知るか！　早いもん勝ちだぜ！　って、ああ！　俺が狙ってた
みれ！」

「早い者勝ちなのだろう？」

「あ……あの、そんな喧嘩腰に食べるのはどうかと……」

「まゆつち、しょせんこの世は弱肉強食、強ければ生き弱ければ死
ぬんだよ」

「パネエな京ネエさん。まるで某侍マンガの大悪党の名ゼリフじゃ
ねえか」

「ちったあ静かに食べねえのかテメーらは。うるさすぎて飯が不味
くなる」

「はは、しっかし夕飯で鍋つてのも珍しいよな。いつもならひとり
ひとりにちゃんとした膳があるのに、こういった料理つて余り出
こないもんな。何でか知ってる、ゲンさん？」

「俺に話を振るな。ったく、今日が『鍋の日』だからじゃねえのか。
11月7日は立冬になる事が多いし、冬と言えば鍋だしな」

「そうなんだ。教えてくれてありがとうゲンさん」

「勘違いすんな。これ以上うつるさくされると迷惑だからだ。それだからな」

（相変わらずシンデレだなあ）

11月8日は？

「……………」

「なに考え込んでんだ、モモ？」

「ああ、ジンか。ちょっと気になった事があってな」

「気になった事？」

「私は川神流・瞬間回復を使うだろ？ あれはまあ簡単に言えば一瞬で傷を治す技なんだが、ふと思ったんだ。あれって歯が抜けても治るんだろうかと」

「確かに永久歯は抜けたら生えてこないしな……っていつか、どうしてそんな事考えたんだ？」

「なんでも今日は『いい歯の日』で『いい歯ならびの日』らしいくてな」

「そうか、11月8日で『118』の語呂合わせか」
いいは

「それでお前はどっ思っ？」

「そんなに知りたいならやってみればいいだろ？ ってオイなんだその視線は。まさか俺にやれってんじゃないだろうな？」

「いや、お前なら瞬間回復できそうだし、私がやってもし治らなかつたら恥ずかしいし、お前に嫌われたら生きていけないからな」

「それぐらいで嫌いになるか。それ以前に、そう思っただったら最初から考えるなよ」

「11月9日は？」

「大和！ 今日が何の日か知ってるか！？」

「今日？ 11月9日だから『119番の日』だろ？」

「日本ではそうなのか。って違う！ 今日是我がドイツにとって歴史的な日なんだぞ！」

「『ベルリンの壁崩壊の日』なんだろ？ 確か1989年の今日、ドイツ西ベルリンを囲んでいたベルリンの壁が取る壊されたんだよね」

「さすがジン兄殿！ まさにその通り！」

「と言っても、お前も生まれてないしリユーベックはベルリンから離れているだろ？」

「なんだと！？ 大和貴様、我がドイツの歴史に喧嘩を売る気か！？」

「後は1938年に『水晶の夜』事件が起こったり、1918年には帝政が廃止されたりと、11月9日はドイツにとっていろいろ歴史的な節目の日なんだよな？」

「その通りだ！ そうだ！ 父様とマルさんにも電話しなければ！」

「助かった兄弟」

「相手の機嫌がいい時は水差すような事は言わない方がいいぞヤマ」

11月10日は？

「こんな時間まで酒とはいい身分だな釈迦堂」

「なんでえルーかよ。どうだ、お前もこつちに来て一緒にやらねえか？」

「お断りだネ。そもそもワタシはお酒はやめたんだヨ」

「つれねえな。酒飲んでる時の方が強えってのに」

「だからだヨ。そんな事に頼っては真に強いとは言えないからネ。それに今日は『断酒宣言の日』らしいシ、どうだい釈迦堂、君もこれを機に酒をやめてみては」

「冗談じゃねえ。俺にとって酒つてのはライフワークみたいなモンだからな、やめると言われて『はいそうですか』ってわけにはいかねえんだよ。そもそも、なんで今日が『断酒宣言の日』なんだよ？」

「さあ？ それはワタシにも……」

「それは11月が英語でNovemberと読む事と10日って事で『もうNovemberのめんばー』、酒10とまる』って語呂合わせかららしいですよ」

「……ジン、子供はもう寝る時間だヨ」

「こんな時間まで起きて何してんだお前は」

「モモが苦手なのにホラー映画を見てまして、怖がったので寝付くまで一緒にいたんです。だからこれから自分の部屋に戻りますよ。それじゃあお休みなさい」

「……興がそがれた。今日はもう寝るか」

「それがいいネ」

11月10日は？（後書き）

特に意味もなくオチもなく。何となく釈迦堂さんを出したかった。

時系列的には神が小学5年ぐらいと思って下さい。

11月11日は？

「ジン！今日は『ポッキーの日』だぞ！」

「らしいな。グリコが1999年・平成11年の11月11日に制定したって事だけど」

「ああ、平成11年11月11日で『1』が6つ並ぶ事から制定されたらしいな。そして今年は2011年11月11日で再び『1』が6つ並ぶ年だぞ」

「そうだな。それで『ポッキーの日』がどうかしたのか？」

「どうもこれも今日は『ポッキーの日』。恋人がいるならやる事があるだろ」

「……まさかと思うが『ポッキーゲーム』をやるって言うんじゃないだろうな？」

「そのまさかだ。さあやるぞ今すぐやるぞ！」

「やってもいいがモモ、後ろにあるポッキーの箱は何だ？」

「ん？ 11月11日ちなんで11箱だ。もちろん全部ポッキーゲームで食べ尽くすぞ。本当は1111箱にしたかったがそんな金ないしな。不満だったけど妥協したんだぞ」

「せめて11本にしてくれ……」

11月12日は？

「しかし、日本でも普段の服は洋服なんだな。テレビと同じなのは京都のあの場所だけか？」

「あのなクリス。何度も言うが京都の映画村は時代劇の撮影のために作られた所で、今の日本は諸外国と変わらないぞ？」

「それはもう十分理解しているぞジン兄殿。ただあれほど素晴らしい服があるんだ。常日頃から着ていてもいいと思うのだ」

「女性の着物ならともかく男の羽織袴はな……そもそも日本に洋服文化が広まったのは明治5年に『礼服には洋服を採用す』っていう太政官布告が出された事から始まるんだ。それまでは礼儀の場といったら公家風・武家風の和服礼装だったんだけどその布告で廃止になったんだ。それを記念して今日は『洋服記念日』に制定されているしな」

「なるほど……だからこそ昨今の伝統行事の時は和服礼装が多いのか」

「そういう事だな。洋服文化の広がりで逆に和服の方が礼装がなかったわけだ」

「という事はジン兄殿とモモ先輩の婚儀はやはり神前式になるのか？」

「……なんでいきなりその話題にいくんだ？　って言うか答えにくい質問をするなよ」

11月13日は？

「秘密基地ひみつで姉さんに膝枕されながら寝る……本当に俺たちの前だと自重しなくなったな兄弟は」

「いいな。ねえ大和。私もしてあげるから付き合って？」

「それは何に対する『付き合って』だ？ 膝枕だけしてくれるなら吝かではないぞ京」

「チィ」

「露骨に聞こえるような舌打ちをするな。そう言えば今日、11月13日は『いいひぎの日』らしいな。『11113いっひゃ』なんていう安直な語呂合わせかららしいけど」

「なるほど。だからモモ先輩は膝枕してるんだね。でもあれって……」

「それ以上は言うな京」

「本当は『膝』枕じゃなくて『太腿』枕だね。本当に『膝枕』をしたら痛いし変な体勢になるよね」

「世の恋人たちの幻想をぶち壊すなよ……」

11月14日は？

「おい京、なんだこの大量のオレンジジュースと映画のDVDは？
そして何故それを俺の部屋に持ち込んでいるんだ？」

「知ってた大和？ 今日『オレンジデー』で『ムービーデー』。
恋人同士と一緒にオレンジジュースを飲む日と一緒に映画を見る日
なんだって」

「だから何で俺の部屋に持ち込む」

「やだもう！ それを私の口から言わせるなんて！ 今日は1日中
部屋に引き籠ってDVDを見よ。そして大好きです大和」

「どんなテンションだお前は！？ それからお友達で」

「……モモ先輩が羨ましい。喜々として大量のオレンジジュース買
ってレンタルDVD借りていったのにな……」

「兄弟はオレンジジュース好きだし映画もよく見るからな……なん
かあの2人のための日に思えてきたぞ……」

「ここは対抗して私たちも！」

「だからお友達で願います」

11月14日は？（後書き）

韓国では毎月14日は恋人に関する記念日になっています。従って14日は基本、大和と京のネタでやっています。

11月15日は？

「そう言えば今日は『七五三』ですね。みなさん何か思い出はありますか？」

「ちなみにまゆっちは3歳の時も7歳のときもちゃんと着物着て写真撮ったんだぜー」

「期待に応えられないけど僕はないね」

「そもそも俺様、今日が『七五三』だったのも初めて知ったぜ」

「やったことないね」

「アタシもー」

「やったとしても覚えてねーよ」

「自分はやったぞ。3歳の時も7歳の時も。父様が着物を買ってくれて写真も撮ったんだ。日本ではあまりやらないのか？」

「さすが日本かぶれ。でも本格的に祝うのは金銭的に余裕のある家か、昔から慣例になってる家だけだろ。あとは近くに祖父母が住んでいる家ぐらいか？今はレンタルで安上がりだからそれほどでもないかもしれないけど、基本的には3歳の時しかやらないんじゃないかな。兄弟や姉さんはやっぱり寺院だからちゃんとしたのか？」

「まあな。俺は紋付袴、モモは着物着てな。そう言えば7歳の時は着たくないって駄々こねてたなモモは」

11月16日は？

「あゝいいねゝ無垢な娘は可愛いねゝ」

「トーマ。準が病気だよ？」

「指をさしてはいけませんよユキ。準のアレは一生ものの病なんですから。生温かく見守ってあげるのが友人というものですよ」

「知ってるか若、ユキ。1876年・明治9年の今日、日本で初めての幼稚園『東京女子師範学校付属幼稚園』、現在のお茶の水女子大付属幼稚園が東京の神田に開園したんだぜ。だから今日は『幼稚園記念日』に制定されているんだ」

「準は博識ですね」

「うゝん、それって凄い事なのかなゝ？」

「俺もお手て繋ぎたいなゝ」

「トーマゝ、警察呼んだ方がいい？」

「ユキ、例えどんな変態であろうとも友人を国家権力に売り渡すのはいただけませんよ」

11月17日は？

「ガクとカズはこれで王手。終わりだな。クリス、その駒をそこに打つとあと10手目で王手な。逃げ道考えろ。タク、自分ばかりじやなくて相手の駒の動きも考えろ、そのまま打てば22手目に王手だぞ。ミヤ、ヤマの手の真似ばかりするな。自分で考えて打て。ヤマ、長考は構わないけど人の裏ばかり読んでたまには正攻法でこい。それからキャップ、頼むから少しは定石に囚われてくれ」

「ねえマヨ、暁君たちなにやってるの？」

「見ての通り将棋ですよ千花ちゃん」

「いやそれは見れば分かるから。だから何で暁君ひとりで風間ファミリー全員の相手をしてるの？」

「実は風間君がどこからともなく大量の将棋盤を持って来まして、何でも今日は『将棋の日』らしいのでみんなで打とう提案したんです。それで暁君が多面打ちが出来る仰ったので……」

「それでこの状況ね。でもいくら多面打ちが出来るからって7人同時に相手するって……相変わらず非常識よね暁君は……」

「モモ先輩の彼氏さんですから」

「そのひと言で片付くっていうのもある意味で凄いわよね」

11月18日は？

「知っていたかジン。今日は『土木の日』らしいぞ」

「『土木の日』？ 土木建築の日って事か？」

「そうだ。何でも1879年・明治12年に工学会、今の日本工学会が成立されて、1987年・昭和62年に建設省、今の国土交通省の支援で制定したらしいんだ。それでどうして今日かというと、『土木』の字を分解すると漢字で『十一十八』になる事かららしい」

「よく知っていたな」

「まあな。以前バイトしてた時に建築家のおっさんが教えてくれたんだ」

「なあモモ、俺はどこに突っ込めばいい？ お前も女なんだからガテン系のバイトをするのはどうかと思うんだが……？」

「ガテン系は日当だし割がいいんだぞ？ 借金返済に追われていた時はよくやったなあ」

「遠い目になるのはいいが、そもそも借金をするな」

「今はしてないだろ」

「どうやら反省の度合いが浅いようだ。もう少し説教が必要のようだな？」

「藪蛇だったか……」

11月19日は？

「ねえみんな知ってた？ 今日が『鉄道電化の日』なんだよ。1956年・昭和31年の今日、米原〜京都間の鉄道が電化されて東海道本線全線が電化したのを記念して、鉄道電化協会が1964年・昭和39年に制定したんだ。そもそも電車ってのは知っての通り蒸気機関車が始まりなんだけど、日本では1872年・明治5年に開業したのが始まり。電化の鉄道が登場したのはそれほど経過していない1890年・明治23年、上野公園で開かれた第3回内国勧業博覧会で日本初の電化鉄道、つまり電車の運転が披露されたんだ。営業運転されたのはその5年後、京都市で京都電気鉄道が開通。この運営は官営鉄道、後の国鉄、今のJRが運営していたけど、一般の鉄道では甲武鉄道が1904年・明治37年に飯田町〜中野間を電化したのが始まり。その2年後に甲武鉄道は国有化されるからこの飯田町〜中野間がそのまま国有鉄道初の電化区間になったんだ。それから大正、昭和を経て鉄道の電化が進んでいくんだけど あれ？ みんなどこ行っただの？ お〜い、話はまだ続くんだけど？」

11月20日は？

「なんだこの大量のピザは？」

「やあ暁君」

「クマちゃん。まさかとは思うがコレ全部食べるつもりか？」

「そうだよ。なんていったって今日は『ピザの日』だからね」

「ピザの日？」

「うん。凸版印刷が1995年にピザをイタリア文化のシンボルとしてPRする日として制定したんだ。なんで今日かというのはピザの原型のピッツァ・マルゲリータ誕生に関係した、イタリア国王ウンベルト1世の奥さんのマルゲリータの誕生日だからなんだ」

「食の事になると本当に博識だなクマちゃんは。だけどさ」

「コラ熊谷！ 学校にピザのデリバリーを頼むとは何事だ！？」

「さすがにそれはやりすぎだろ……」

11月21日は？

「肉！ 肉！ 肉！！！」

「落ちてワン子！ 食べのものは逃げない！」

「何言つての大和！ 逃げるわよ！ 主にキャップとガクトの胃袋に！」

「ねえジン兄、なんなのこの大量のチキンは？」

「ヒロか。なに今日は『フライドチキンの日』だからな。さっきケンツキーで50ピースほど買つて来たんだ」

「50ピースって……まあ、キャップと岳人君と一子ちゃんがいるから大丈夫だね。それで？ あの2人はなにやってるの？」

「みんな集合するまでおあずけされてんだが、目の前の獲物に本能が抑えられないみたいだ」

「肉！ 肉！ 肉！ 肉！！！」

「ちよっ！？ 落ちてワン子！ 俺の腕を噛むな！」

「既に野性と化してるね」

11月22日は？

「」
「」

「機嫌いいわねお姉様。どうしたの？」

「おお、ワン子か。決まっているだろ、今日が11月22日だからだ」

「えっと……今日って何かあったっけ？」

「なにを言っているワン子。今日は『いい夫婦の日』じゃないか！」

「え、えっと……？」

「あ！ ジンが帰ってきた！ お帰りなさいあなた。お風呂にする？ 食事にする？」

「……なあモモ、いったいぜんたい俺はなにから突っ込めばいい？ それともノリ良く答えるのがお前のためなのか？」

「そうだぞ。今日は『いい夫婦の日』なんだ。もう1度やるからちゃんと答えるよ」

「まだ夫婦じゃないって言うツツコミはしない方がいいんだろうな……」

「さあ行くぞ！ お帰りなさいあなた。お風呂にする？ 食事にする？ それとも、わ・た・し？」

「……良しモモ、最初にどう答えればいいか、そこから教えてもらおうか」

「ジン兄も大変だなあ……」

11月23日は？

「ジン兄で決まりだよね」

「そうよね。だってジン兄だもん」

「何を指して『だって』かはよく分からんが自分も賛成だ」

「キャップさんも当てはまるんじゃないでしょうか？」

「確かにキャップも素養あるけど、年が離れてたらね。1・2歳ぐ
らいの差だと余りそう感じないね」

「さつきから何の話だ？」

「お姉様。あのね、今日が『いい兄さんの日』らしいから、ファミ
リーの男子で誰が1番お兄さんっぽいか話してたの」

「11月23日で『1123』^{いーいさん}か。確かにジンが1番お兄さんっぽ
いな。ファミリー内での立場もまさに『兄貴』だしな。ま、ワンス
にしてみれば将来は本当に『お義兄さん』になるし問題ないだろ」

「？」

「おおお」

「どっいつ意味だ？」

「あの、それって……」

「さり気なく惚えるなんてさすがモモ先輩だぜ」

11月24日は？

「今日は『進化の日』なんだって」

「なんだそりゃあ？ ゲームの関係か何かか？」

「違うよ。1859年の今日、ダーウィンの『種の起源』っていう本の初版が刊行されたんだ。それを記念しての日なの」

「ガクトも早くゴリラから人間に進化するといいよ」

「テメエー京。俺様を馬鹿にしてんな」

「霊長類に分類してあげただけでもありがたく思っただけだよ。前も同じこと言ったけどガクト、霊長類の意味知らないでしょ？」

「ぬっ……」

「なんで言い返せないのさ。それって殆ど一般常識だよ？」

「ガクトは進化よりもモロと融合して合体した方がいいじゃない？」

「またそのネタなの！？」

11月24日は？（後書き）

ゲーム序盤と終了メッセージネタ。
分かる人にしか分らないかな……

11月25日は？

「なあ、兄弟」

「なんだヤマ？」

「実は今日は『女性に対する暴力廃絶のための国際デー』なんだ」

「何となく言いたい事は分かるが聞いてやろう」

「ありがとう。女性が男性より身体的、世間の立場的に弱いのは認める。理不尽な暴力は許されないことだというのも確かだ。だが、だからといって女性の暴力を野放しにするのはいかんと思うんだ」

「疲弊しきつてるのはそのせいかな」

「クリスに教えた嘘がバレて蹴られて、それに便乗した姉さんに関節極められ、姉さんの命令でワン子に殴られ動けないところを京にすり寄られ、まゆっちはオドオドして見てるだけ……」

「同情してやるが原因が自業自得だ」

11月26日は？

「はあゝ。いい湯だなあゝ」

「オヤジくさいぞモモ 痛っ」

「こんな美少女に対して『オヤジくさい』とはなんだ。失礼な事言うて叩くぞ」

「もう叩いた後だろ……しかしあれだな。もう一緒に風呂に入るのが当たり前になったな」

「そうだなあ……そう言えば今日は『いい風呂の日』らしいな」

「『いい風呂』？ ああ、『1126』の語呂合わせか。それがどうかしたのか？」

「いや、特にどうと言うわけでもないが……そうだな。いい風呂にするために私がお前の体を洗ってやる。私の身体を使って」

「なんだ、そのいかがわしい店のような提案は。却下だ却下」

「ふうゝん？ あれか？ あそこが元気になるからやめろって事か？」

「もう少しオブラートに包んで言え。って言うかお前はもう少し女らしい羞恥心を持てよ」

「ふん。お前の前で何を恥ずかしがる必要があるというんだ。もう

お互い、全てを知り尽くしているというのに」

「それはそうだが……」

「ア、アダルトだね。でもお姉様もジン兄ももう少し声を抑えてほしいな……脱衣所まで声が聞こえているんだけど……」

11月27日は？

「そこに並べお前たち！」

「おいヨンパチ、なんでウメ先生あんなに怒ってんだよ！？」

「俺が知るか！」

「許可なく喋るな俗物！ 島津！ 福本！ 今日が何の日か知っているか！？」

「「いえ！ 知りません！」」

「今日は『更生保護記念日』だ！ 刑務所から出所してきた者に更生の道を開く事を目的している！」

「ウメ先生！ いくらなんでも犯罪者扱いは酷いと思います！」

「そうだぜ！ 俺たちは自分たちの湧き上がる思いのまま行動したまでだぜ！」

「その結果が女子更衣室を覗く事か！？ 反省していないようだな！ いいだろう！ 今日はお前たちが泣いて許しを請うとも徹底的に指導してやる！」

「「そ、そんなあゝ」」

「そもそもなんで止めようとした僕も一緒に怒られてるんだろ……」

11月28日は？

「『税関記念日』ねえ……」

「どうしたヤマ？」

「ああ兄弟か。いや、最近TPPが話題になってるからちょっと調べてたんだ。そしたら今日が『税関記念日』って出てきたから」

「なるほど。税関は関税を取り扱う部署だったな」

「あまり関係あるようには思えないけど、まあ1つの知識にはなったよ」

「ちょ！？　なんで頼んだ本の倍の金を請求すんだよモモ先輩！？」

「代行料と運搬料だ。いいからとっとと出せガクト」

「理不尽だろそれ！？」

「さて、俺はあそこで暴利を貪る悪徳税関所をちよつと説教してる」

「姉さんを説教できるのって、兄弟と鉄心さんだけだよな……」

11月29日は？

「今日はなんでも『いい服の日』らしいぜ。『獵犬』」

「『いい服の日』？ 何故今日なのか、『女王蜂』？」

「11月29日だから『1129』の語呂合わせだよ。日本にはそういった記念日みたいのが多いんだよ」

「なるほど、理解しました。それで私にそれを教えてどうしようというのですか？」

「別に。ただテメエもたまには軍服以外の服を着たらどうかと思っ
てな」

「その言葉、そっくりそのまま返ししょう。貴女こそメイド服以外の服を着てはどうですか？」

「ふざけんな。メイド服は英雄様の従者っていう証であたいの誇り
でもあるんだ。言われてはいそうですかっていくか」

「それには肯定しましょう。私の軍服も私の誇りです。何より服と
いうのは機能性と動きやすさを重視で選ぶべきです」

「それには同感だな。チャラチャラした服の何がいいんだか」

「女2人が服の話題で全く盛り上がりゃんとは……これだから野蛮な
輩は嫌なのじゃ。女というものは着飾ってこそ、その魅力を発揮す

「アノヲ」

11月30日は？

「なあ由紀ちゃん」

「はい？」

「カメラのオートフォーカスは便利だが私は気に入らんのだ。あれは素人にはありがたいが、やっぱり玄人は自分でちゃんとピントを合わせてこそそのカメラだと私は思うんだ」

「えっと……いきなりどうしたんですか？」

「ああ、すまない。実は今日は世界初の自動焦点カメラオートフォーカスが発売された日で『オートフォーカスの日』なんだ」

「そうなんですか。そう言えば凜奈さんはカメラをたくさん持っていましたね。趣味なんですか？」

「趣味……と言えは趣味だ。正確に言えは趣味のために必要なものだから持っている、だな」

「趣味のために必要なもの、ですか？　ところで凜奈さんの趣味って……」

「決まっているだろう。緋鷲刀の成長記録を取ることだ」

「えっと……」

「それだけのためにプロ顔負けの写真撮影の技術を身につけたって

か……やっぱりパネエぜ凜奈っちは……」

12月1日は？

「うーん……」

「携帯を眺めながら何を悩んでいるんだまゆっち？」

「壊れたの？」

「あ、クリスさん、京さん。いえたいしたことではないのですが、携帯の着信メロディは設定した方がいいのかと思ひまして」

「ん？ どういう意味だ？」

「タカさんが仰っていたのですが、ファミリーだけでも普通の着信音と変えておいた方がいいと……」

「なるほど、そういう事。確かにその方が誰から掛かってきたのかすぐ分かるからね」

「京さんは設定しているんですか？」

「もちろん。ちなみに大和だけさらに別設定にしてあるよ」

「予想通り過ぎるな。まあ自分も父様やマルさんは別設定にしてあるがな。そういえば今日は『着信メロディの日』らしいな」

「そ。1999年の今日、世界で初めて着メロの配信が行われたんだよ。ちなみにこれが大和から掛かってきた時の着メロ」

『京……お前を一生放さない……何度生まれ変わろうとも俺はお前と添い遂げてやる』

「な、なんだその着ボイスは!？」

「や、大和さんが吹き込んだんですか!？」

「ううん。ジン兄に頼んだ。あの人、恐ろしいまでに声真似が上手いんだよ。それこそ本人と聞き間違っぐらい。しかも男女関係なく」

「ジ、ジン兄殿の意外な特技があらわになったが……」

「さっきの着ボイスのインパクトが強すぎですよ……」

12月2日は？

「宇宙！ いつか行ってみたいぜ！」

「キャップはいきなりどうしたんだ？」

「あ、大和。いやさ、今日が『日本人宇宙飛行記念日』だって教えてたら……」

「なるほど。あの反応は予想通りだな。そう言えばモロ、日本人初の宇宙飛行を成功させたのは誰か知ってるか？」

「え？ 誰って毛利衛さんじゃないの？ あれ？ そういえばあの人は1992年の9月だったよね？ 今日が『日本人宇宙飛行記念日』だってことは違うの？」

「その通り。日本人初の宇宙飛行を成功させたのは秋山豊寛さんだよ。でも宇宙か。俺も死ぬ前に1度は行ってみたいな」

「ジン兄とかモモ先輩はなんか生身でも行けそうな感じするけどね」

「さすがにあの2人も無理だろ……成層圏ぐらいまでなら生身で行けそうだけどな」

12月3日は？

「そう言えば今日って『プレイステーションの日』なんだよな」

「『プレイステーションの日』？」

「ああ、今俺たちが遊んでるゲーム機の初代プレステが1994年に発売されたのが今日なんだ」

「ふうん。これがプレステ3って事は3代目って事か」

「そう、日本が世界に誇るゲーム機だよ。あんまりゲームしないからって珍しく疎いな兄弟」

「そりやそうだろ。このプレステ3が発売された時、俺は記憶喪失で日本にいなかったんだから」

「あ、そうだったな」

「ちつくしよおお！ また負けた！」

「代われキャップ！ 次こそ俺様がぶっ倒してやる！」

「今日初めて触ったゲーム機で初めてプレイする格ゲーなのに1時間もしないでパーフェクトで10連勝って……」

「しかも大和君との会話の片手間だよ……」

「さすがジン兄としか言えないねよね」

12月3日は？（後書き）

P S の発売日は1994年12月3日。

P S 2 の発売日は2000年3月4日。

P S 3 の発売日は2006年11月11日。

この間隔で行けばP S 4（仮）の発売は来年だね。
まさかそれがP S V i t a なのかな？

12月4日は？

「そう言えば今日『E・T・の日』なんだけどき。みんなはどんな映画が好き？」

「『E・T・の日』だあ？　なんだそりゃ」

「映画の『E・T・』だよガクト。1982年・昭和57年の今日、日本で公開されて『もののけ姫』に抜かれるまでは日本歴代最高の配給収入を記録していたんだ。まあそれは置いて、それでさっきと同じ質問だけど、みんなはどんな映画が好き？」

「ただひたすらにアクション映画だな」

「アタシもお姉様と一緒に！」

「自分はやはり時代劇だな」

「時代劇、いいですね。私も好きです」

「愛憎渦巻くドロドロの恋愛もの。あるいはミステリーだね」

「冒険活劇が俺の血潮になるぜ！」

「俺様もキャップと同意見だな。モロはどうせアニメだろ」

「別にいでしょ。日本のアニメは世界に誇れる文化なんだから。ジン兄たちは？」

「これと言っていないな」

「同じく。俺は話題作りのためいろんなジャンルを見るから」

「ホラー。洋画よりも邦画の方が好きかな。リグとか好きだよ」

「意外な一面だね、タカ……」

12月5日は？

「犬っ娘。今日が『バミューダトライアングルの日』なのは知っているか？」

「ばみゅーだとらいあんぐる？ 何それ？」

「ふむ、心して聞け。バミューダトライアングルとは男にとって女の未知の領域の事を言うんだ。つまりは女のせい かふっ！」

「なにカズに変な事を教えようとしているんですか凜奈さん」

「ジン兄？」

「カズ、知りたければヤマかタクに聞け。間違ってもミヤとモモには聞くなよ」

「うん、分かった！」

「……さて、何をしようとしてたか教えてもらえますか？」

「だからってお前……親指を弾くだけで圧縮された空気の指弾なんか撃つな。おかげで額が赤くなつたろ」

「反省していませんね？」

「いや！ 反省した！ 反省している！ だから指を鳴らしながら満面の笑みを浮かべて近付いてくるな！」

「凜奈さん。貴女も作家なら知っているでしょう？」
『問答無用』
「って言葉を？」

「お前いくらなんでも過保護すぎるだろ!？」

「凄いやね……あの凜奈さんを怯えさせる事が出来るなんてこの世にジン兄だけだよ」

12月6日は？

「大和くジュース持ってこい」

「はいはい」

「大和くお腹すいたくお菓子ちょうだい」

「はいはい」

「……大和はいつたいなにをやってるんだ？」

「あれね。実は今日って『姉の日』なんだけど、それを知ったモモ先輩が大和相手にその権限をフルに使っているんだ」

「その権限を実の妹の一子ちゃんに使わず舎弟でしかない大和君に行使するあたり、さすがって言うかなんて言うか……」

「あれは“姉”というより“暴君”だよな……」

「そうか、今日は『姉の日』なのか……自分もマルさんに何かしたら喜んでくれるだろうか？」

「喜びすぎておかしくなるんじゃない？」

「逆にクリスさんを甘やかしそうな気がしないでもないね……」

12月7日は？

「もう後2週間もしたらクリスマスだな」

「そうだな。ところでクリスマスの装飾が始まってるしな」

「そういえば今日は『クリスマスツリーの日』でな。何でも日本で初めてクリスマスツリーが飾られた日らしいぞ。ところで小梅さん、今年こそはクリスマスぐらい　いや、何でもない」

「何を言い掛けたか非常に気になるし、何を言いたかったかなんとか分かつているが、聞かなかった事にしてやる」

「そいつはどうも」

「やあ小島先生。よろしければクリスマス、一緒に食事でもどうですか？」

「結構です。既に篁先生と食事の約束をしておりますので」

「そうですか……ハア、世知辛いねえ……」

「いつの間に私と約束をしたんだ、小梅さん？」

「方便だ。最近誘いがしつこくて辟易していたんでな。すまないがお前を利用させてもらった」

「謝る事はないさ。なら方便を本当にすればいいだけだ。それじゃあクリスマスに何の予定もない小梅さんのために私は予定を空けて

おくとするよ
「

「強調するな、殴られたいか凜」

12月8日は？

「今より70年前の今日、1941年の昭和16年に日本軍が真珠湾を攻撃し、この日より3年6ヶ月にも及ぶ太平洋戦争が始まった……今日は日本が愚かな戦争を起こした日として『対米英開戦記念日』はたは『太平洋戦争開戦記念日』になっておる」

「またジジイのくだらん戦争語りか」

「くだらんとは何じゃモモ！」

「実際くだらないだろ！戦争がどうこう言われても私たちは生まれてすらいなかったから実感なんて湧くか！」

「そんな考えが既に間違っておると言うのに！ええい、そこになおれモモ！今日はみっちり説教をしてやるわい！」

「上等だジジイ！やれるものなら力づくでやってみろ！」

「あゝあ、また始まったネ。それじゃあワタシは門下生を避難させるから、あとはよろしく頼むヨ、ジン」

「ハア……結局止めるのは俺なんですネ」

12月9日は？

「また政治家が汚職で捕まったってたね」

「ああ、ついでに言うとその政治家の秘書も横領で捕まったな」

「今日は『国際腐敗防止デー』だってのに意味のなさいニュースだな」

「おい大和、なんだそれは？」

「ん？ ああ、今日は『国際腐敗防止デー』と言って、贈収賄・横領などの汚職・腐敗行為の防止を目的とした『国際腐敗防止条約』が調印された日なんだ」

「なるほど、確かにそんなニュースが今日流れてたら意味のなさない記念日だな」

「兄弟の言う通りだ。まあ、政治家と汚職ってのは切っても切れないやつらしいけどね」

「なあ大和。お前、政治家になるんだろ？」

「確かにになりたい職業の1つではあるけど……急にどうしたの姉さん？」

「なに、もしお前が政治家になって汚職にまみれた政治家がいたら私に教える。私とジンとタカが必殺仕人のごとくお仕置きしてやるからな」

「……………」

「モモ、面白い面白くないの判断で適当な事を言うな。それに日本には公的に認められた殺人許可はないぞ」

「それ以前に僕を巻き込まないでよ……」

「なんだよ、リアクション悪いな。お前たちなら出来そうじゃないか」

「出来る出来ない以前の問題だと思うぞ、姉さん……」

12月10日は？

「さあ大和、お姉さんと遊ぼう！」

「姉さん！ 今日国連総会で『世界人権宣言』が採択された『世界人権デー』だ！」

「それがどうした？」

「俺は舎弟として、いや、人としての人権の尊重を提言したい！」

「甘い大和。人権とは法制度があつて初めて効果を発揮するものだ。お前と私の間に法なんてものは存在しない。したがって舎弟に人権などないのだ！」

「それなら舎弟契約も意味もないさいぞ、姉さん！」

「ぬう……」

「契約つて契約者と被契約者の間で交わされる約束のようなものだから、必ずしも法が関係するとはいえないんじゃないか……」

「ナイスフォローだジン！」

「余計なこと言つな兄弟！」

「さあ大和！ 舎弟として私の退屈を晴らさせる！」

「そついうのは兄弟の役目だろ！？ ぎゃあああああ！」

「……ヤマトは悪いことしたな。あとで何かおしってやるか」

12月11日は？

「さあ！ 今日自分が夕飯を作ったぞ！」

「お嬢様が丹精込めて作った手料理です。感謝の限りを尽くしてしつかりと味わいなさい」

「オイ大和！ なんだこの罰ゲームは？」

「俺が知るか！ なんかしらんが急にクリスが料理しだしたんだよ！ しかもマルギツテがいるから文句も言えないし！」

「京とまゆつちとゲンさんは！？」

「まゆつちは凜奈さんにお呼ばれ、ゲンさんはバイト、京は用事があるとの建前で危険を察してそそくさと逃げた」

「オイお前ら」

「ゲンさん！」

「僕らのゲンさん！ 帰ってきてくれたんだね！」

「誰がお前等のだボケが。まあいい、コレやるよ」

「「胃腸薬？」」

「何でも今日は『1211』の語呂合わせで『胃腸の日』らしいからな。食ったあとにでも飲んでろ。じゃあ、俺はバイト先でメシ食

「だから晩飯はいらねえからな」

「「ゲンさん……優しさが身に染みるが出来れば止めてくれよ……」

「

「さあ！ 大和にキャップ！ たくさん作ったからどんどん食べてくれ！」

12月12日は？

「そういえば今日って『漢字の日』だね」

「『漢字の日』？ 日本にはそんな日まであるのか？」

「まあな、今日が12月12日って事で『1212』いいいいちじ語呂合わせだけどな。ニュースでもやってるだろ？ 清水寺でその年の世相を象徴する一字を発表されるってやつ」

「もうそんな時期か。あ！ いいこと思いついた！ 俺たちもそれやろうぜ！ クジで決めた相手を漢字1字で表現するんだ！」

「また唐突だなキャップ」

「よし！ それじゃあやるぜ！」

一子 クリス 『栗』 「『栗』となはんだこの犬！」

クリス 由紀江 『礼』 「まともなもので良かった……」

由紀江 京 『愛』 「さすがまゆっち、良く分かってる」

京 大和 『京』 「主旨を分かってない！ これはお前の願望だろ！」

大和 百代 『暴』 「いい度胸だな弟よ」

百代 岳人 『愚』 「なあ、これってなんて読むんだ？」

岳人 卓也 『弱』 「どうせ『ひ弱』とか『脆弱』って意味なんだろうな」

卓也 翔一 『奔』 「なあモロ。これってどういう意味だ？」

翔一 緋鷺刀 女 『ねえキャップ。僕を怒らせたいんだ』

緋鷺刀 神 万 『……これはどう捉えればいいんだ？』

神 一子 純 『これって褒められてる？ 褒められてるよね？』

12月12日は？（後書き）

ちよつと解説。

『栗』……言わずもがな 『礼』……礼儀正しい 『愛』……これ
も言わずもがな

『京』……願望そのまま 『暴』……暴力・暴君 『愚』……愚か

『奔』……奔放 『弱』……ひ弱・脆弱 『女』……女顔だから

『万』……万能 『純』……純情

こんな解説いらないよね

12月13日は？

「まゆっちとタカは似ているよな」

「えっと……急にどうしたんですか、クリスさん？」

「いや、ふと思っただけで深い意味はないのだが……何とか雰囲気とか性格とか、そういったものがよく似ているなあと」

「誕生日も同じだしね。外見も何となく似てる気がするし、男女だから二卵生双生児と言われても信じやすいそう」

「うん、自分も信じるな。タカがお兄さんでまゆっちが妹だ」

「その意見賛成。ちなみに関係ないけど今日は『双子の日』らしいよ。何でも1874年・明治7年の今日に『双子の場合は先に生まれた方を兄・姉とする』っていう太政官指令が出たんだって」

「おお、日本にはそんな政治指令があったのか？」

「私たちが話題だったのに置き去りにされてるような気がするのはいけいせいでしょ？」

「まあ、風間ファミリーにはよくあることだよ」

12月14日は？

「なあモモ……ここにいるのが仲間内だけとはいえ、そろそろ離れてほしいと思わなくもないんだが？」

「いいだろ、今日は『ハグデー』という恋人同士が抱き合って寒い冬を暖かく過ごす日なんだ。だから私はお前に抱きつくのをやめるつもりはない」

「でも今の姉さんは抱き合っているんじゃない、兄弟にただしがみついているだけにしか」

「なんか言ったか大和？」

「何も言っていないよ」

「羨ましい、ああ羨ましい、羨ましい、羨ましいたら、羨ましいな」

「京……なんだその羨望まみれの短歌は……」

「今の私の心の叫び。ねえ大和」

「お友達をお願いします！」

「もはやデフォになったやり取りすら前倒しかヤマ……」

12月15日は？

「大和！ 東京に行きたいぞ！」

「いきなり何だ？」

「いやな、さつきネットで知ったんだが、何でも今日は『観光バス記念日』らしいじゃないか」

「それは分かったけど、なんで東京に行きたいになるんだ？」

「東京には『はとバスツアー』なるものがあるというではないか！」

「ああ、だから東京に来たいのね……」

「なあなあ大和。俺いいこと思いついたぜ」

「いやな予感しかないが聞いてやる。何を思いついたんだキャップ？」

「川神でもバスツアーをやるうぜ！ 見て廻る所なら東京にも負けてねーと思うんだ！」

「おお！ 素晴らしいアイデアだ！ キャップ！」

「クリスもそう思うだろ！ よおうし！ そうとなりやあすぐにでも草案を作って市役所に殴り込みだ！ 大和！ お前も手伝え！」

「頼むから俺を巻き込むな！」

12月16日は？

「1890年・明治23年の今日、東京市内と横浜市内の間で日本初の電話事業が開始した。故に今日は『電話創業の日』とされている。加入電話は東京が155台、横浜が45台。ちなみに当時の電話は直通ではなく取次のものだったらしく日中は7人の女性、夜間は2人の男性が交換手として対応していたらしい」

「凜坊、オジサン、蘊蓄はどうでもいいんだが」

「そう考えると日本の電話は100年ほどで携帯できるほどにまでなったという事だな。あ、お姉さん、焼酎をロックと熱燗3本。たこわさ、あんきも、軟骨の唐揚げも追加で」

「オイオイ、どんだけ飲むし食うんだお前さんは」

「巨人さんの奢りなのだから当然遠慮などしないさ。それに今の私にそんな強気に出ていいのか？ 小島先生の携帯番号を知りたいんだろ？」

「足元見るねえ……前から思っていたが、本当に可愛げがないなお前さん」

「可愛げなんぞ母親の腹の中に置き去りにしてきたさ。すみませーん、お刺身の盛り合わせもお願いします」

「……本当に容赦ねえな。で、そろそろ教えてほしんだが？」

「ああ、その事なんだがな。実は小島先生に『宇佐美先生にだけは

決して教えるな』という事です。すでに買収済みなんだ。本当に申し訳ない。ハハハハ」

「……つまりあれか？ オジサン奢らせ損ってわけ？」

「ハッハッハッハッハ」

12月17日は？

「なあガクト」

「なんだよモモ先輩」

「私は人は信じれば空を飛べると思うんだ」

「いきなりな話題だなオイ」

「何でも今日は『飛行機の日』らしくてな。あのライト兄弟が飛行機での初飛行を成功させた日らしいんだ」

「で？ それと今俺様が屋上に呼ばれた事に何の繋がりがあるんだよ？」

「なあガクト。私は人は信じれば空を飛べると思うんだ」

「いやだからそれはどうでも ってオイ！？ まさか！？」

「というわけで飛んでみる！」

「結局このオチかよ！？」

「高く飛んでるねガクト」

「10メートルは飛んでるね」

「オイ！ なにのんびりしているんだ！？ いくらガクトでもあの高さから落ちたら死ぬぞ！」

「問題ない。兄弟が側にいるんだ」

「そのひと言で片付くなんて……相変わらずパネエぜ、ジン兄は。オイラマジで尊敬するぜ」

「本当に『困った時の神頼み』ですね」

「まゆ、上手い事言ったつもりなんだろうけどさ、それ、シャレじやなく本当にその通りなんだけどね」

12月18日は？

「そういえば今日ニュースで『東京駅完成記念日』と言っていたが、東京駅は何年に完成したんだ？ あの赤レンガ造りの建物はかなり年季が入っていると思うのだが……そういえばモロはそういうの詳しくだったな？」

「うん。いいよ、教えてあげる」

「すまないな。あれ？ みんなどこに行ったんだ？」

「あのね、東京駅が出来た理由はね、1889年に国鉄東海道本線の新橋―神戸間が全通、私鉄の日本鉄道が上野を始発駅として青森に向けて線路を建設していたんだ。そこで新橋と上野を結ぶ高架鉄道の建設が東京市区改正企画によって立案されて、1896年の第9回帝国議会での新線の途中に中央停車場を建設する事が可決された。それが東京駅なんだ。だけど実際の建設は日清戦争と日露戦争の影響で遅れて、工事は1908年から本格化して、1914年の今日、12月18日に約6年半かけて完成、同時に『東京駅』って命名された。だから今日が『東京駅完成記念日』に制定されんだ」

「あ、ああ、そうなのか？」

「それでね、東京駅はその名の通り東京の表玄関とも言えるターミナル駅で、プラットホームの数は日本一多くて、在来線が地上5面10線、地下4面8線の合計9面18線。新幹線が地上5面10線。地下鉄が地下1面2線あるんだ。ちなみに面積は東京ドーム約3.6個分。赤レンガ造りで有名な丸の内駅舎は1914年竣工で、今は国の重要文化財に指定されているんだ。それから乗り入れてい

る路線なんだけど
」

「これはいつまで続くんだった？
みんなはこれが見分かっていて逃げたのか……」

12月19日は？

「1910年・明治43年の今日、東京の代々木練兵所、現在の代々木公園で徳川好敏工兵大尉が、ライト兄弟の人類初飛行に遅れる事7年。日本初飛行に成功した。飛行時間は4分、最高高度は70m、飛行距離は3000mだった。そしてそれを記念して今日12月19日は『日本人初飛行の日』とされた」

「淡々と語つてるところ悪いんだけどさ、あれを止めようとしなの、大和？」

「何故止める必要があるんだモロ？ そもそも俺如きが止められるとでも？ 止めたければヒロを呼んで来い」

「いや、ガクトを庇うわけじゃないけどあれってどう見ても事故でしょ？ いくらなんでも可哀想だよ」

「例え理由が事故だろうとも、姉さんの着替えを覗いてしまった以上、兄弟による折檻は避けて通れないんだよ」

「それはそうかもしれないけど……あ、また蹴り上げられた。これでもう13回目だよ。さすがにヤバいんじゃないかな？」

「兄弟の事だ、怪我をしないようにちゃんと手加減しているさ」

「それもそうだね」

「今日も今日とて、ガクトは蹴りを推進力に空を飛ぶ か」

「日和ってまとめてんじゃねえよ！ 助けるよ!？」

「反省が足りないようだなガク。よし15回で終わらせようと思ったがさらに10回追加だ」

「墓穴掘ったああ!？」

12月20日は？

「あ、お帰りなさいタカさん」

「……えっと、これはいったいどうなってるの？」

「帰ってきた時は『ただいま』だぜ、タカっち！」

「え、あ、うん、ただいま、まゆに松風。それよりもなんで家にいるの？ それに鰯の刺身に鰯の煮付け、鰯の照り焼きに鰯雑炊まで……なんで鰯づくしなの？」

「えっとですね、下校際で凜奈さんに『今日は急用で家事当番が出来ないので私に代わって緋鷺刀の夕飯を頼む。材料は冷蔵庫に入っているから何でも使って構わない。ついでに由紀ちゃんも食べていけばいい』と、鍵まで渡されてお願いされたので……」

「それで冷蔵庫を開けたら鰯がいっぱいあったって訳か。そういう今日は『鰯の日』って言ってたからたぶんそのせいだね」

「ご迷惑だったでしょうか？」

「いや、ありがとう。助かったよ」

「よかったです。あ、もうすぐ出来ますので座って待ってて下さい」

「うん、そうさせてもらうよ。久し振りにまゆの手料理だし楽しみだね」

「はい、丹精込めて作らせていただきました！」

「いい。実にいい。まるで新婚家庭のようで物凄くいいぞ！」

「電話で切羽詰まった声で『一大事だ』って言うから何かと思ったら……部屋の中が見える高い建物から光学36倍ズームの望遠レンズがついた一眼レフで写真を取り、リビングに隠した集音マイクを使つて中の様子を聞く。はつきり言つて犯罪行為ですよ。っていうか暇人ですね凜奈さん」

「そう言いながらも付き合う辺り、さすがだな暁の坊主。ちなみになんで今日が『鯉の日』かというとな、12月は師走とも言い鯉は魚篇に師と書く事から、20日は『20^{ぶり}』語呂合わせだ」

「そうですか……俺は知り合いから犯罪者を出したくないだけです。デバガメもほどほどにしておかないとヒロが本気で怒りますよ」

「その怒った顔もなかなかあるがな」

「ダメだこの人……」

12月21日は？

「ジン、何でも今日は『遠距離恋愛の日』らしいぞ」

「なんで今日なんだ？」

「それがだな、『1221』の両側の1が1人を、中の2が近付いた2人を表しているんだとさ」

「なるほどね、誰が考えたか知らないけど凄い発想だな」

「しかし遠距離恋愛か……そういえば私も2年8ヶ月ほど経験したなあ」

「うっ」

「しかも私の一方的な想いだけだったなあ」

「えっと……」

「なんといっても相手は完全に私の事を忘れていたぐらいだからなあ」

「……………」

「そこところ、お前はどう思う、ジン？」

12月22日は？

「ふと思ったんですけど、この学園の教員たちにも労働組合ってあるんですか？」

「本当にいきなりだな直江。だが何故そんな事を聞く？」

「あれだろ、確か今日が『労働組合法制定記念日』であり、この学園がたまあにだが労働組合法に抵触している様な気がしたんだろ？」

「よくあれだけの質問で読み取れたな……だが抵触しているように見えるのか？」

「いやぁ……時々なんですけど、ここの学園の教員って割に合わない様なことしているような気がするんですよ……」

「否定はしないがな」

「否定しろ馬鹿者。直江の質問だがちゃんと労働組合はあるぞ。だがどの先生もちゃんと納得済みでこの学園に来ているのだからそれほど不満はないだろうな」

「まあ、私の場合は不満があつたらすぐに辞めればいいだけだしな」

「お前は本当に自由奔放だな」

「食つに困らない資格ばかり持つてる人ですからね……」

12月23日は？

「今日は『天皇誕生日』という事で祝日らしいが、みんなは祝わないのか？」

「確かに天皇誕生日だけど基本的には国民の祝日の1つだよ」

「そうなのか……日本の天皇は神の血を引く言われているがそれは事実なのか？」

「えっと、古事記や日本書紀ではそう書かれていますけど、それに載ってる神話は作り話のものもありますから、正確なところは分からないんですね」

「そうなのか……それなのに国民の象徴なのか？」

「歴史の流れから象徴となったと考えるただければいいかと。それと知っていました？ 日本の皇室は現存する世界の王朝の中で最長の歴史を有していると言われているんです」

「なに！？ そうなのか！？」

「はい。6世紀前半に即位した継体天皇以降、今上天皇に至るまでの皇室系譜はかなり信憑性が高いらしいので、少なくとも1500年以上は続いています」

「それは凄いな……なるほど、それならば神の血を引いていると言われても信じてしまいそうだな」

「私はそれより、ジン兄の一族の方が神の血を引いていると言われ
たら信じちゃうかな。なんか物凄く信憑性高そうじゃない？」

「「否定できない……」」

12月24日は？

「まさかこんな所でクリスマスを過ごすとは思わなかったぞ」

「たまにはいいだろ？ ま、個室だからマナーとかは気にするな」

「それ以前に、私としてはお前がフランス料理のテーブルマナーを知ってる方が驚きなんだがなジン……」

「テレビでやってたものの見よう見真似だよ」

「そうか……それで？ この後のご予定は？」

「部屋も予約してあるし、上の階のバーにでも行こうか」

「……お前が率先してお酒を勧めてくるとはな。いつもなら『未成年なんだから』とか言って真っ先に注意するのに」

「ま、今日はクリスマス・イヴだからな。さつきも言ったけど、たまにはいいだろ？」

「ああ、そうだな。それじゃあ」

「改めて」

「「M a r y C h r i s t m a s」」

§ § §

「寒くない？ ユキ？」

「はい、大丈夫です」

「ごめんね、せつかくのクリスマス・イヴなのに凜奈さんのパーティーに付き合わせちゃって……最後なんて殆ど酔っ払いの宴になっちゃったし」

「あはは……でも十分に楽しめましたし、ありがとうございました
ヒロさん」

「僕としては、出来れば2人っきりで過ごしたかったんだけど……
…結局は凜奈さんの押しに負けちゃって……」

「ふふ、でもヒロさん、まだクリスマス・イヴは終わってませんよ
？」

「はは、そうだね。それじゃあ行くのか。まずは駅前のイルミネーションを見て、その後の事は歩きながら考えようよ」

「はい！」

§ § §

「うわゝ！ 凄いな大和！」

「まったく……行きたいところがあるって言うからどこかと思えば、学園だよ」

「だって雪が降ってるし積もってるのよ!? 誰もいない広いところで見てみたいじゃない！」

「まさに犬は喜びなんとやら、だな」

「大和は楽しくないの？」

「いや、お前と一緒にならどこにいても楽しいよ一子」

「えへへ……ねえ大和」

「ん？」

「大好き!!」

12月24日は？（後書き）

三者三様のクリスマス・イヴ。

時系列的には本編終了1年後のクリスマス・イヴといった感じで。

12月25日は？

「今日はトーマの誕生日なんだよね？」

「そうですね、実は私はキリストの生まれ変わりなんです」

「さらりとんでもない嘘をつくな若。そもそもキリストの誕生日ってのは後付けで、本当はいつなのか分かってないだろ」

「冗談が通じませんね、準は」

「でも『クリスマス』ってどういう意味なの？　なんで24日を『クリスマス・イヴ』って言うの？」

「『クリスマス』の語源は英語の『Christ's Mass』で『キリストのミサ』という意味なんです。そして『イヴ』とは『evening』と同義の古語『even』の語末音が消失したものですから、正確な意味で『クリスマス・イヴ』とは12月24日の夜の間だけなのですよ」

「ほー、そりゃ知らなかったな。それよりも若、いいのか？　パーティーから抜け出して。昨日の本パーティー程ではないにしろ、今日もそれなりに関係者各位が集まってんだろ？」

「昨夜、顔を出したので大丈夫ですよ。それよりも2人と一緒に過ごす方がよほど有意義なクリスマスですよ」

「うん！　僕もトーマと準と過ごせて嬉しいよー！」

「ま、若がいんだったらとやかかく言わないさ」

「ええ、では行きましょう、準、ユキ」

12月25日は？（後書き）

3人が小6、中1ぐらいの頃。

冬馬にとって自分の誕生日すら忘れている父親のパーティーよりも、小雪や準と一緒にいた方が楽しい。それを理解して何も言わない準。複雑な事は分からないけど一緒にいられて嬉しい小雪。

といった感じです。

12月26日は？

「くらえ！ 俺様の必殺パンチ！」

「当たるかよ！ 俺のフットワークは止められないぜ！」

「おいモロ、キャップとガクトは何をやっているんだ？」

「なにつて……ボクシングでしょ？」

「見れば分かる。だから何でボクシングをしているんだ？」

「今日が『ボクシングデー』っていう外国の記念日だって言ったらいきなり始めたんだよ」

「勘違いも甚だしいな。そもそも『ボクシングデー』ってのはクリスマスプレゼントをの箱を空ける日、あるいはクリスマスにカードやプレゼントを届けてくれた郵便配達人や使用人にプレゼントをする日のことで、決してスポーツのボクシングとは違う」

「外国の記念日なんだから勘違いしてもしょうがないんじゃないかな？」

「ヒロの言う通りなんだけど……ちなみにどっちが勝つと思う？」

「僕はガクト」

「それじゃあ公平を期して僕はキャップ」

「兄弟は？」

「凜奈さん乱入でダブルノックアウト」

「「え？」」

「静かにしろくそガキども！ こっちは徹夜明けなんだ！ ゆっく
り寝かせろ！」

「「ぐはあ」」

12月27日は？

「キャップ、なに読んでるんだ？」

「大和か。これ結構面白いぜ」

「『ピーターパン』？ しかも原本直訳のやつか」

「まあな、バイト先の本屋にあつたから借りてんだ」

「相変わらずマニアなチョイスだなあの本屋は。しかしキャップにピーターパンか……何か意図的な揶揄な気がするなあ」

「うん？ なんだよジン兄」

「何でもない。そういえば今日が『ピーターパンの日』なのは知ってたか？ イギリスの劇作家ジェームス・バリーの童話劇ピーターパンがロンドンで初公演した日なんだってさ」

「へえ、そんな日があるんだ」

「キャップは別の意味でもずっと『ピーターパン』な気もするぜ」

「まあ、少なくとも俺と兄弟とヒロは別の意味でも『ピーターパン』に当てはまらないけどな」

「デメエ大和！ そりゃ彼女持ちの余裕か！？」

「下世話な例えをしておいて、それを取って返されたから逆ギレ…」

…どう思っタカ?」

「僕に振らないでよ卓也君」

12月28日は？

「ちょ！？ モモ先輩！ どこを触っているんですか！？」

「減るもんじゃないからいいだろ」

「むしろ増えるかもね、ククク」

「まゆつち相変わらず凄いわ。どこもかしこも」

「あの……そんな風に見られると恥ずかしいです」

「……1888年・明治21年のこの日、文部省、現在の文部科学省が全ての学校に毎月4日に生徒の身体検査を実施するように訓令した。故に今日は『身体検査の日』とされているんだって」

「なるほど、ヒロが部屋の前で門番しているのはそういうわけか……それを聞いた姉さんが女子連中に『身体測定をやるう！』とでも言っただな。で？ それを吹きこんだ奴はどうした？」

「部屋の中を覗こうとした罰でジン兄の折檻を受けてる」

「やっぱり馬鹿ガクトか」

12月29日は？

「今日は『シャンソンの日』らしいけど、そもそもシャンソンってどういう意味なんだろうね？」

「じゃんそん？ それって何かの食べ物？」

「シャンソンとは楽曲のジャンルだろ。相変わらず食い意地が張ってるな犬は」

「うっさいわね！」

「えっと、そもそもシャンソンとはフランス語で『歌』を意味するらしく、現代のフランス語圏内では歌全般の意味として、他言語圏では『フランス語で歌われる曲』という意味で使われているそう
で、特定のジャンルの楽曲を指すものではないらしいですよ？」

「む、そうなのか？ しかしまゆっちは博識だな」

「いえいえ、凜奈さんからお聞きした知識ですから自慢するほどの事では……」

「しかし、まゆまゆは凜奈さんとそういう話をよくするのか？」

「はい！ 凜奈さんは作家という職業柄なんでしょうか、いろんな知識を多く持っていていらっしゃって大変なことになるんです！ この間もお泊りした時にいろんな事を教えていただきました！」

「凜奈さんの家にお泊りって……」

「それってイコール、タカの家にお泊りって事だよね」

「そうか、保護者公認なのか。よかったなまゆまゆ」

「うえい!？」

12月30日は？

「今日12月30日は『地下鉄記念日』。1927年・昭和2年に上野〜浅草に日本初の地下鉄、現在の東京地下銀座線が開通した。つまり、日本は地下鉄が通ってからまだ100年もたっていないだよね」

「モロ！ そんな蘊蓄を今言っている場合か！ 我々は既に聖戦に出遅れているのだぞ！ このままでは間違いなく計画していた『冬コミの歩き方』を大幅に変更せざるを得ないんだぞ！」

「いや、そもそもスグルが寝坊したのが1番の問題でしょ。1日目の興奮が抜けきらずに寝付けなかったって……遠足前の子供じゃあるまいし」

「ふん、そんなだからお前はまだまだ半人前の2次元人なんだ」

「寝坊して冬コミに遅れるのは一人前の2次元人のする事なの？」

「ぬぐう！ おのれモロオ」

「はいはい、駅についたよ。乗り換えるんでしょ？」

「おお！ そうだ！ 今は言い争っている場合ではない！ 走るぞ！ モロ！」

「はいはい」

12月31日は？

「お、除夜の鐘が始まったな」

「もうそんな時間か」

「今年は撞きに行かないのか？」

「こうしてお前とくつついて炬燵に入ってるというのに、なんでわざわざ寒い所に行かなきゃなんのだ」

「どうせあとでみんなと初詣に行くんだ。今、寒い外に出たところで余り変わらないだろ。それに行くって言ってもすぐその境内だろ」

「みんなで行くなら別に構わんが、せつかくの2人きりなんだぞ？ 暖かい所にいたんだよ。それよりもミカン、ミカン」

「はいはい。ほら、口開けろ」

「あゝん。うん、美味しいな」

「そういえば、カズが初詣の時に振袖を着るって言っていたけど、お前も着るのか？」

「そのつもりだ。私の艶姿を見て惚れ直せよ」

「期待しておくよ。それじゃあ」

「あ
あ」

「今年一年、お疲れさまでした」

1月1日は？

「いやゝ面白かったな、初詣も初日の出も」

「お前が楽しかったのはヒロが振袖を着てきたからだろ」

「ああ、あれは素で驚いたな。おかげで私とワン子が霞んだぞ。まあ、タカの目は死んでたけどな」

「隣にいた凜奈さんのしてやったりな笑顔が物凄い印象に残ったな。あれは間違いなく押し切られたなヒロのやつ。まゆっちが実家に帰って見ていないのが何よりも救いか」

「写メでまゆまゆに送ってたりしてな。凜奈さんならやりかねんぞ」

「否定できないな……いや、確実に送ってるだろうな。それから俺はモモの方が綺麗だと思うぞ。惚れ直したぐらいだ」

「……急に話題を変えるな。照れるだろ」

「思ったままの事を言っただよ。で、これからどうする？ ひと眠りするか？」

「なにを言っているジン。正月で元旦で初詣と初日の出を終えた。そして今私は振袖を着ている。となると次にやる事は決まっているだろ」

「おい、まさか」

「ひ・め・は・じ・め」

「女が満面の笑みを浮かべて言うセリフか……さっきまでの恥じらいはどこに行った」

1月2日は？

「よし！ みんな集まったな！」

「正月2日目に召集って……もうちょっと常識を考えてよキャップ」

「全員といっても、京とまゆっちとクリスは実家に帰省していないんだけどな」

「俺様、まだ眠いんだけど」

「くだらない事だったらしばくからな」

「まあみんな落ち着け。おせち持ってきたから食べながらもいいだろ」

「いただくわ！」

「はは。ところでキャップ、なんで今日召集をかけたの？」

「おお、そうだったそうだった。みんな、今年の初夢はどんなだった？ それを報告し合おうぜ」

「それだけのため。新学期が始まってからでもいいだろうに」

「いちいちうるさいぞ大和！ ちなみに俺はインディージョーンズばりの冒険活劇だったぜ！」

「キャップらしいね。悪いけど僕は見てないないよ。って言うか見

てたかもしれないけど忘れちゃった」

「モロに同じ。俺も覚えてないな。ワン子は？」

「うん？ アタシはお姉様と互角に勝負する夢を見たわ！」

「まさしく『夢』だな。俺様は美女に囲まれた酒池肉林の夢だったぜ」

「なんで夢までそこまで俗っぽいんだろうね岳人君は。僕は何故か分かんないけど女になった夢だったよ……」

「返す言葉がないぞヒロ。振袖を着た後遺症だろうな恐らく」

「そう言うジン兄は？」

「俺か？ あんまり覚えていないけど、なんか子供がいた様な……？」

「なんだ、姉さんとの未来予想図か？ そのうち正夢になったりしてな。ところでさっきからずっと黙ってるけど、どうしたんだ姉さん？ 変な夢でも見たのか？」

「いや、私も大和やモロ口と同じで覚えていないな」
（言えるか。ジンとの結婚式だなんて私らしくない乙女チックな夢を見たなんて！）

1月3日は？

「なあ緋鷲刀」

「なに、凜奈さん。酒のつまみならもう少して出来るから待っててね」

「了解した。ところで今日が何の日か知ってるか？」

「今日？ 1月3日だよ……戊辰戦争が開戦した日なのは知ってるけど、他に何かあったの？」

「ああ、今日は『駆け落ちの日』なんだ」

「駆け落ちって……」

「1938年・昭和13年の今日、とある女優と演出家が樺太の国境を越えてソ連へ亡命したんだ。で、その2人が人様には言えない恋仲だったらしく、その亡命は駆け落ちでもあったってわけだ」

「それを僕に話して何が言いたいのか？」

「由紀ちゃんと駆け落ちするなら私は援助してやるぞ。お前たちはある意味でロミオとジュリエットだからな。何だ、その人を蔑むような目は」

「小さな親切大きなお世話って言葉、作家なら知ってるでしょ？」

「最近、イジリ甲斐がないなお前……」

1月4日は？

「誕生石？」

「はい、今日、1月4日は『14』の語呂合わせで『石の日』『ストーンデー』なんです」

「それで誕生石ね。僕とまゆとクリスマスさんは一緒だね」

「そうだな。3人とも10月26日だからな」

「10月は『オパール』『トルマリン』『ローズクォーツ』で10月26日は『タイガーアイ』だね」

「俺は！？俺は！？」

「キャップは12月12日……12月は『ターコイズ』『ジルコン』『タンザナイト』『ラピスラズリ』、12月12日は『ピンクダイヤモンド』だね」

「2月のアタシと大和は？」

「2月は『アメジスト』で2月20日は『オニキス』、2月26日は『イーグルクォーツ』だね。僕は3月で『アクアマリン』『コラル』『ブラッドストーン』、3月21日は『アイアン』だね」

「モロ、私は？」

「京は4月だったよね。えっと『ダイヤモンド』『クォーツ』、4

月13日が『バイオレットパール』だ」

「最後は俺様とジン兄とモモ先輩か」

「8月は『ペリドット』、『サードニックス』、8月1日は『シトリン』、8月8日は『ダイヤモンド』、8月31日は『ファントムクオーツ』だよ」

「『ファントムクオーツ』か、カッコイイな。ジンはなんか予想通りだな」

「そうか？（ここで俺の誕生日は便宜上でつけられた、なんて空気の読めない事は言わない方がいいか）」

1月5日は？

「はい、これで詰みですよ」

「待て、ちょっと待ってくれんかのう神」

「待ちません。もう10回目ですよ？ いい加減に投了して下さい
鉄心さん。あ、ルー師範代、整地終わりました？ お疲れ様です。
宇佐美先生、いい加減長考はやめて下さい。どんなに考えてもそこ
から逆転手はありませんから。それから綾小路先生、さっき打ち直
しをしましたよね？ 公式ルールでは反則ですから気をつけて下さ
い。おっと、次はここです」

「ちつ。オイ暁の坊主。多面打ちしているのに何で正確に打てるん
だお前は？」

「ていうか、誰だよ？ 囲碁なら勝てるって言ったの。オジサン全
く勝てる気しないんだけど？」

「そもそも、教員の親睦会をやっているのにいきなり呼び出して『
囲碁をするぞ』って、こっちの方が意味分かりません。鉄心さん、
諦めつきました？」

「なに、今日が1月5日の語呂合わせで『囲碁の日』でな。お前が
以前、風間の坊主たち相手に将棋の多面打ちをして全員に勝ったと
聞いて、鉄心さんが『囲碁なら勝てるかも知れん』と仰ったんだ」

「どうせそんなところだと思いましたよ。と、宇佐美先生も凜奈さ
んもこれで詰みです」

「「なっ!？」」

「ワシはこれでもプロと互角に打てるぐらいの実力を自負しとるつもりだったんじゃが……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3348w/>

真剣に私と貴方で恋をしよう！！ 外伝？ ～毎日が記念日 365日の小囃

2012年1月5日19時49分発行